

チュクロヴァ地方産業調査

アダナ、メルスィン、オスマニエ、ハタイ、カフラマンマラシュを中心とした
経済・投資環境

2018 年 12 月

イスタンブール事務所
海外調査部 中東アフリカ課

【免責条項】

本報告書で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。
ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本報告書で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載

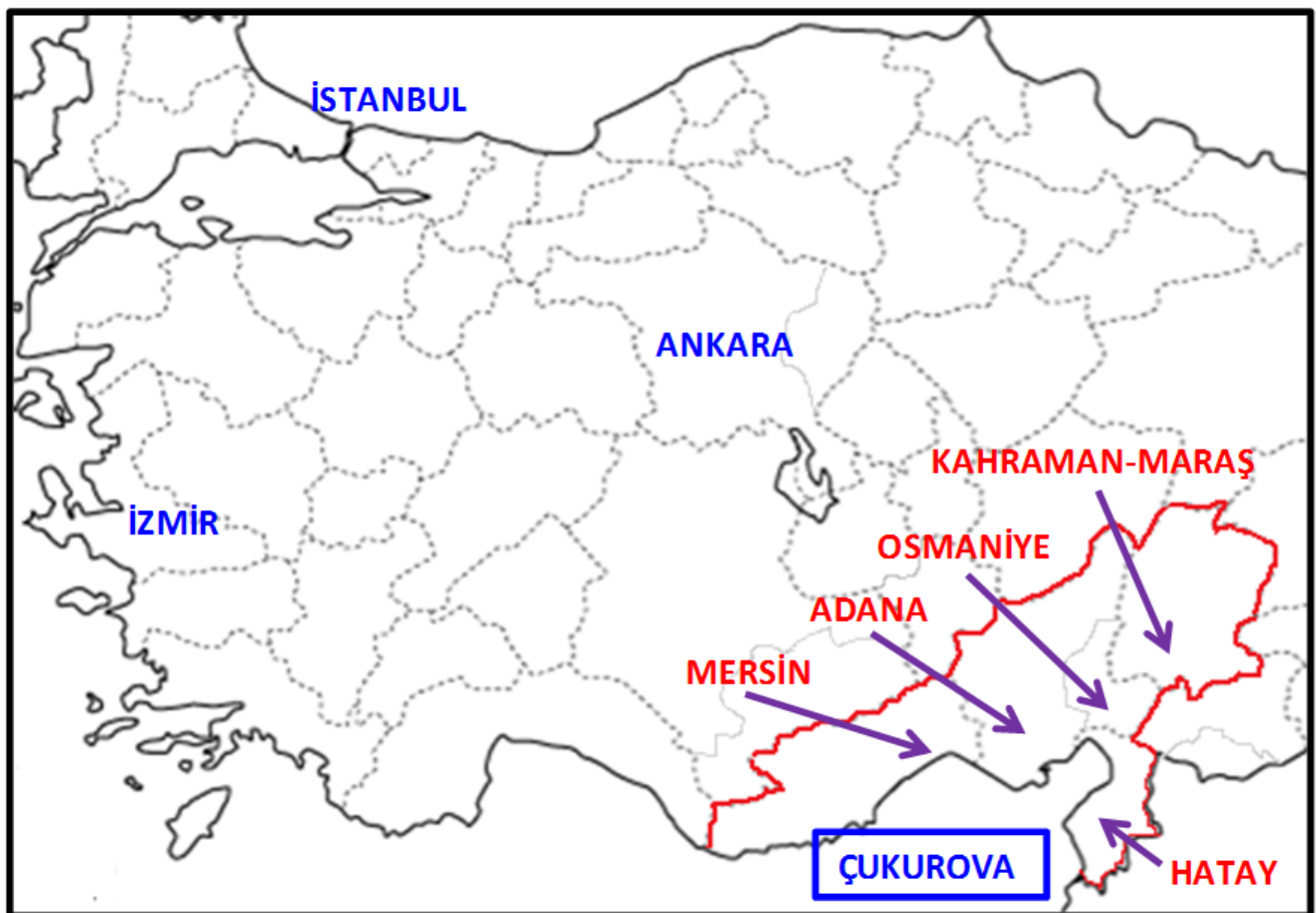
目 次

はじめに	1
I. チュクロヴァ地方概要.....	2
II. トルコ第5位の工業地帯～アダナ県	8
1. アダナ県の概要	8
2. 貿易動向.....	8
3. 産業動向.....	9
4. 公認工業地域(OIZ)、フリーゾーン(FZ)	13
III. 中東向けトランジット港～メルスィン県.....	15
1. メルスィン県の概要.....	15
2. 貿易動向.....	15
3. 産業構造.....	16
4. 産業インフラ	18
5. 公認工業地域(OIZ)、フリーゾーン(FZ)	20
IV. イスケンデルン湾の鉄鋼地域	22
1. ハタイ県、オスマニエ県、カフラマンマラシュ県の概要.....	22
2. 貿易動向.....	22
3. 産業動向.....	25
4. 産業インフラ	30
5. 公認工業地域(OIZ)	32

はじめに

チュクロヴァ地方はトルコの GDP の約 8%を占める経済規模を持ち、トルコ南部を代表する工業地帯となっている。同地方の地中海側には中核都市であるアダナをはさんでトルコ最大規模の貿易港メルスィン港、カスピ海地域のエネルギー資源の搬出港であるジェイハン港を擁する。また、完成すれば国内 2 番目の規模となるチュクロヴァ空港の建設計画のほか、トルコ中央部と中東を結ぶ高速道路、鉄道などの整備も進められており、欧州と中東をつなぐロジスティクス・ハブとしての役割があらためて注目されている。現在、こうした利点を生かし、石油化学、鉄鋼をはじめ繊維、自動車・同部品、農業・食品などの産業が集積している。ジェトロイスタンブール事務所では、同地方の地政学的な重要性和日系企業にとってのビジネス展開の可能性の観点から、チュクロヴァ地方の 5 県（メルスィン、アダナ、オスマニエ、ハタイ、カフラマンマラシュ）を取り上げ、産業、企業、物流動向を重点的に報告する。

図 1 チュクロヴァ地方の地図



出所：ジェトロイスタンブール事務所作成

I. チュクロヴァ地方概要

チュクロヴァ(低平野)地方は、トルコ南部のメルスィン、アダナ、オスマニエ、ハタイ、カフラマンマラシュの5県にまたがる広大な沖積平野(面積約7,500平方キロメートル)で、セイハン川(Seyhan)、ジェイハン川(Ceyhan)のデルタによって形成されている。

南に地中海、西と北をトロス山脈、東をヌル山脈に囲まれる。古来より温暖な地中海性気候によって豊かな農業地帯としてだけでなく、アナトリア高原とメソポタミアを結ぶ通商の要衝としても知られる。現在は、トルコ南部の工業地帯として発展し、主要貿易港のメルシン港やカスピ海地域のエネルギー資源の搬出港であるジェイハン港を擁することから石油化学産業、鉄鋼、繊維などの工業生産が活発に行われている。特に同地方の中心に位置するアダナは重要な工業都市の一つである。

表1 チュクロヴァ地方経済統計(2014年)

	名目GDP (1,000TL)	GDP構成比(%)				人口		伸び率 17/15(%)
		農業	工業	サービス	税・補助金	2015年	2017年	
トルコ	2,044,465	6.6	28.2	53.7	11.6	78,741,053	80,810,525	2.6
イスタンブール	622,761	0.1	26.7	61.6	11.6	14,657,434	15,029,231	2.5
アダナ	41,813	9.6	28.6	50.2	11.6	2,183,167	2,216,475	1.5
メルシン	36,419	12.1	20.2	56.1	11.6	1,745,221	1,793,931	2.8
ハタイ	25,243	8.3	26.9	53.3	11.6	1,533,507	1,575,226	2.7
カフラマンマラシュ	17,063	10.9	37.6	40.0	11.6	1,096,610	1,127,623	2.8
オスマニエ	7,984	12.6	31.6	44.2	11.6	388,158	405,036	4.3

出所:トルコ統計機構(TUIK)

<農業>

内陸は大陸性気候、沿岸部は地中海性気候に属し、夏期は乾燥し、冬期に雨期となるが、全体的に温暖で雨量は多くない。チュクロヴァ平野は、イタリアのロンバルディア、カリフォルニアと並ぶ肥沃な土地とされ、セイハン川、ジェイハン川、ベルダン川、ギョクス川、アスィ川といった水資源にも恵まれるなど、農業に適した環境にある。1980~90年代は綿花が農業の中核を占めていたが、綿花生産の重要性は相対的に低下しており、現在の主要作物は柑橘類、豆類、小麦が中心となっている。同地方の国内生産に占める割合が高い農産物としては、みかん(その他(トルコ国内農業森林漁業分類(TAORBA)の基準でクレメンティ、さつま、キング種類以外)、98.2%)、グレープフルーツ(96.2%)、ピーナッツ(94.4%)、みかん(キング、93%)、大豆(90.4%)、レモン(87.1%)などとなっている。また、みかん(サツマ、クレメンティン)、オレンジ(その他)、バナナも70%以上、トウモロコシは32.9%の生産シェアを占めている。桃、イチゴ、ざくろ、柿、ブドウ、ゴマ、トウガラシ、ナス、赤大根、スイカ、玉レタスも25%以上となっている。

<鉱物資源>

チュクロヴァ地方は、鉄鉱石、クロム、アルミ、銅、亜鉛、鉛、石灰岩、重晶石、白雲石を多く産出する。特にアダナ県は鉱物資源に恵まれ、鉄鉱石をはじめ、クロム、アルミ、銅、亜鉛、鉛、マンガンなどの鉱物資源がある。特に同県フェケの鉄鉱床は、トルコ最大のスィヴアス県ディブリーに次ぐ規模を誇る。また、同北部アラダーのクロム、コザンの亜鉛資源も有名である。セメント原料となる石灰岩、泥灰土、粘土の資源はハタイ県からメルスィン県に

広がる。オスマニエ県とカフラマンマラシュ県の鉱物資源としては、鉄鉱石、クロム、マンガンがあるが、産出量は全体的に小規模である。

＜産業＞

チュクロヴァ地方の主な産業は鉄鋼、セメント、繊維、農業・食品加工業。ジェイハンにはパイプラインの出口にもなっていることから、石油精製所、石油化学などの産業集積が見られる。太陽光エネルギーの可能性も指摘されているが、現状、産業開発の優先順位からは外れているものとみられる。

県別にみると、アダナ県は綿花を生産するほか、海外の大手ファッションブランド向けに委託生産を行う繊維企業が多い。また、農業・食品加工、家畜用飼料、化学品、自動車(バス)などの産業がみられる。ハタイ県とオスマニエ県は鉄鋼企業が多い。メルスィン県は農業・食品産業が大きいほか、大手セメント企業が拠点を構える。カフラマンマラシュ県は繊維産業が中心で、このほかセメント、製紙、食品産業がある。

企業活動では、イスタンブール工業会議所(ISO)のトルコ最大企業ランキングトップ 500 社(以下、ISO ランキング 500 社)の中にチュクロヴァ地方の企業 39 社が、トルコ輸出業者会議(TIM)が発表した 2016 年の輸出企業上位 1,000 社では 59 社がランキングしている。

＜貿易動向＞

トルコの貿易に占めるチュクロヴァ地方の割合は 4.1%で、ハタイ県は 1.5%、アダナとメルスィンの両県は 1%程度を占める。

表2 トルコの県別輸出動向 (単位:1,000ドル,%)

順位	県名	2016年	2017年	構成比	伸び率
1	イスタンブール	76,071,913	81,454,761	51.9	7.1
2	ブルサ	9,765,909	10,535,049	6.7	7.9
3	イズミル	8,330,121	9,253,641	5.9	11.1
4	コジャエリ	6,527,579	8,095,165	5.2	24.0
5	アンカラ	6,463,475	6,737,918	4.3	4.2
6	ガズィアンテプ	6,418,991	6,607,309	4.2	2.9
9	ハタイ	1,744,917	2,333,778	1.5	33.7
11	アダナ	1,607,018	1,822,688	1.2	13.4
14	メルシン	1,493,352	1,519,006	1.0	1.7
18	カフラマンマラシュ	873,848	955,101	0.6	9.3
41	オスマニエ	142,070	162,682	0.1	14.5
	合計	142,529,583	157,006,437	100.0	10.2

出所:トルコ統計機構(TUIK)

表3 トルコの県別輸入動向

(単位:1,000ドル,%)

順位	県名	2016年	2017年	構成比	伸び率
1	イスタンブール	116,097,055	134,676,655	57.6	16.0
2	アンカラ	10,837,710	12,516,365	5.4	15.5
3	コジャエリ	8,063,741	11,561,876	4.9	43.4
4	イズミル	8,811,052	9,851,424	4.2	11.8
5	ブルサ	8,710,000	9,121,837	3.9	4.7
6	ガズリアンテプ	4,816,682	5,237,741	2.2	8.7
7	ハタイ	2,570,898	3,852,339	1.6	49.8
10	アダナ	1,803,482	2,171,932	0.9	20.4
13	カフラマンマラシュ	1,294,434	1,385,915	0.6	7.1
14	メルシン	1,180,639	1,341,006	0.6	13.6
22	オスマニエ	600,859	659,841	0.3	9.8
合計		198,618,235	233,798,556	100.0	17.7

出所:トルコ統計機構(TUIK)

＜投資インセンティブ＞

トルコの投資優遇措置¹は、(1)一般投資インセンティブ制度、(2)地域投資インセンティブ制度、(3)優先的投資分野インセンティブ制度、(4)大規模投資インセンティブ制度、(5)戦略的投資インセンティブ制度からなる5制度で構成される。支援スキームは、付加価値税の免除、関税の免除、法人税減税、社会保障保険料、金利、土地利用等の優遇措置、付加価値税の還付、所得税の控除からなり、それぞれ投資規模や投資地域によって適用が異なる。

投資地域(Region)は、トルコ国内における開発の程度やGDP規模によって、1～6のカテゴリーに分けられており、投資インセンティブはこうした地域投資インセンティブのカテゴリーと投資規模、投資分野の組み合わせにより提供される。チュクロヴァ地方では、Region2がアダナ県、Region3がメルスィン県、Region4がハタイ県、Region5がオスマニエ県、カフラマンマラシュ県に分類されている(地図参照)。

オスマニエ県は投資インセンティブのRegion5に分類されているが、鉄鋼業に関しては、トルコが欧州鉄鋼連盟EUROFER準加盟国であることからインセンティブの対象外となっている。

¹ 詳細は ISPAT の HP を参照 <http://www.invest.gov.tr/ja-IP/investmentguide/investorguide/Pages/Incentives.aspx>

図 2 チュクロヴァ地方周辺の地域別投資インセンティブ



注: 黄(Region 2)アダナ県、紫(Region 3)メルスィン県、緑(Region 4)ハタイ県、水色(Region 5)オスマニエ県、カフラマンマラシュ県

出所: ISPAT(トルコ共和国投資促進機関)を基にジェトロイスタンブール事務所加工

表4 チュクロヴァ地方の開発機構

行政区分		投資インセンティブ 地域区分	開発機構	
アダナ	Adana	Region 2	CKA	www.cka.org.tr
メルスィン	Mersin	Region 3		
ハタイ	Hatay	Region 4	DOGAKA	www.dogaka.gov.tr
カフラマンマラシュ	Kahramanmaras	Region 5		
オスマニエ	Osmaniye	Region 5		

出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

＜物流インフラ＞

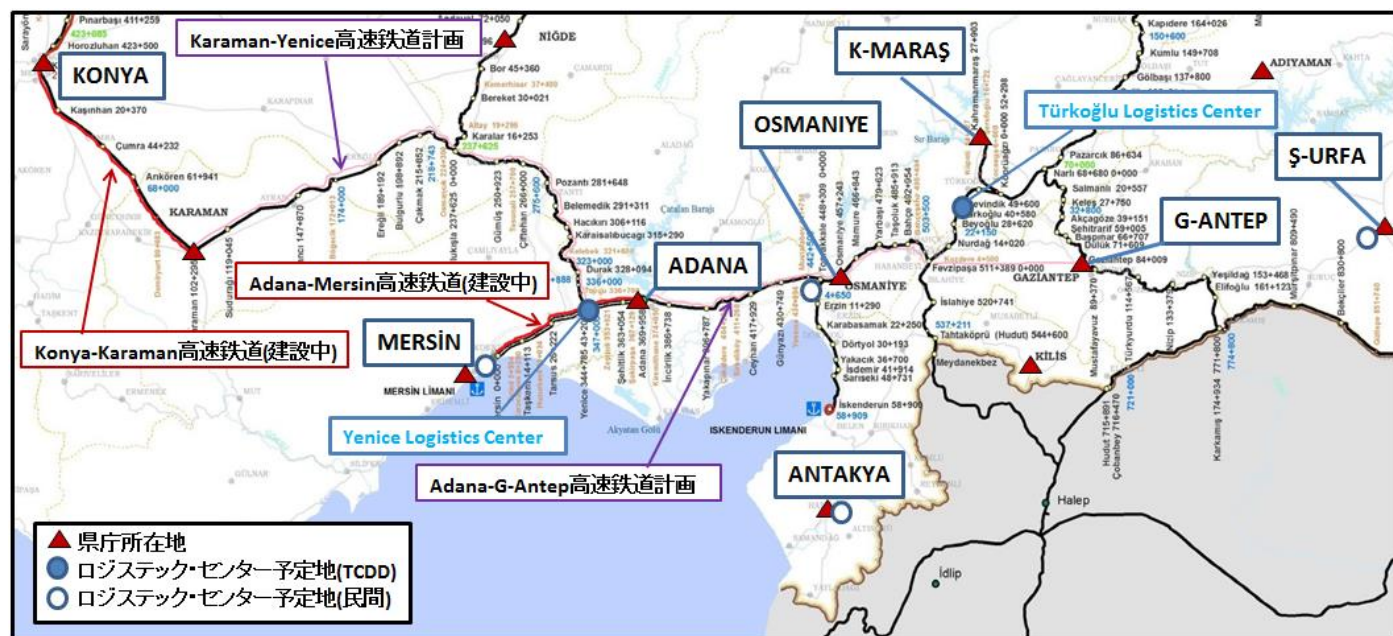
チュクロヴァ地方は地中海側の欧州地域と北アフリカ、中東の間に位置しており、古代から物流ルートとして欧州と中東レバント地域をつなぐ結節点となっている。また、トルコ中央部と中東を繋ぐ高速道路と鉄道が同地方を通ることから、トルコから東方への物流の玄関口となっている。近年、シリア騒乱などの影響を受けたが、シリア、イラクとの物流は規模を縮小しながらも継続している。

港湾では、メルスィン県のメルスィン国際港はイスタンブール市のマルポート港(Marport)に次ぐ規模を誇り、アダナ県、ハタイ県にも多数の港湾施設が存在する。空路ではアダナ県のシャキリパシャ国際空港のほか、ハタイ国際空港、カフラマンマラシュ空港(国内航路専用)がトルコ国内および中東と運行便を持つ。現在、メルスィン県にチュクロヴァ国際空港が中東北アフリカ向け航空路の玄関港として建設中で、2018年下旬～2019年月上旬に完成予定。

鉄道網は、アダナを軸にアンカラ(アナトリア中央部)、ガズィアンテプ(南東部)などの国内の主要工業地域のほか、マラトヤ経由で東部国境地域からコーカサス、イランにつながっている。また、アンカラ-コンヤ間的高速鉄道は、2018年末にメルスィン県南西のカラマンまで延長することが期待されている。高速鉄道はアダナ-メルスィ

ン間で工事が進んでおり、2018 年中に開通が予定されている(メルスィン-アダナー-オスマニエ-ガズィアンテップ間高速鉄道計画の一部)。

図 3 チュクロヴァ地方の鉄道網地図



出所:トルコ国鉄の地図を基にジェトロイスタンブール事務所加工

また、現在、メルスィンから北東 42 キロに位置し、アダナへのルート上にあるイエニジェ (Yenice) では、トルコ国鉄 (TCDD) のメルスィン (イエニジェ) ・ロジスティック・センターの建設が進んでいる。同センターは、アンカラ-コンヤ-アダナー-チュクロヴァ国際空港-メルスィン港-ガズィアンテプをつなぐ新しい鉄道輸送の要になると期待されている。敷地面積は 46 万 2,000 平方メートルで、自動車、機械部品、農機、鉄鋼、パイプ、食品、綿花、セラミック、化学品、セメント、軍用貨物、梱包材など 500 万トンの収容能力を有する予定。

TCDD のロジスティック・センターは、このほかにもカフラマンマラシュ県テュルクオウル (Türkoğlu) の工業地域近郊にも設置 (2017 年) されている。敷地面積 80 万平方メートルで、綿花、糸、繊維、肥料、クロム、セメント、セラミック、鉄鋼、石炭、木材、大理石など 190 万トンの収容能力を持つ。

図 4 チュクロヴァ地方工業地帯



出所：ジェトロイスタンブール事務所作成

Ⅱ. トルコ第 5 位の工業地帯～アダナ県

1. アダナ県の概要

アダナ県は人口 221 万 6,475 人と人口規模では国内第 6 位に位置する。肥沃なチュクロヴァ平野を背景に 19 世紀から綿花栽培の中心地として開発が進み、トルコ共和国の成立以降は、繊維産業を基盤に工業地帯に発展した。メルスィン港に西接しているほか、南東部最大の工業地帯のガズィアンテプ、鉄鋼産業が集積するイスケンデルン市をつなぐ交通の要所にある。また、内陸アナトリアやコンヤを結ぶ道路網が整備されたことで、イスタンブールとトルコ南東部、さらには欧州と中東をつなぐ経済の結節点に位置づけられている。

同県ジェイハンは、イラクおよびアゼルバイジャンからの石油パイプラインの搬出港として欧州へのエネルギー回廊の役割を担っており、周辺にはエネルギー関連企業も見られる。なお、軍事面では、NATO 軍(米軍)が同県のインジリキ空軍基地に駐屯しており、中東地域への重要な戦略拠点となっている。

民間企業では歴史的にサバンジュ財閥の影響力が大きい。現在、県内には、テムサ(商用車)、チムサ(セメント)、エネルギー(エネルギー)が大規模な拠点を構える。同財閥は、創業者のハジュ・オメル・サバンジュ氏が 1925 年にカイセリからアダナに移り、綿花ビジネスを起業したことに始まる。同社はコチ財閥と並ぶ大財閥として日系企業との縁も深く、かつてトヨタ(生産～2001 年、販売～09 年合弁解消)や矢崎総業(2000 年合弁解消)のトルコ進出の際に合弁相手だったほか、現在もブリヂストンとの合弁企業ブリサを擁する。同財閥傘下には、アクバンクを筆頭に 5 社の金融関連企業のほか、エネルギー、自動車、小売、セメント関連企業を擁し、企業名にはアク(AK)やはサ(SA)が付されることで知られる。

2. 貿易動向

同県の輸出額は国内の 1.16%、輸入額は 0.93%を占め、それぞれ国内 11 位、10 位となっている。最大の輸出相手国はイラクで、全体の約 14%を占める。また、輸出先は、ドイツ、スペイン、フランスなど欧州が約 26%、中東北アフリカ諸国が約 20%を占める。主な輸出品はプラスチック製品、自動車、繊維、果実・ナッツなどとなっている。輸入先は、中国、欧州、サウジアラビアなど中東諸国が多く、主な輸入品はプラスチック製品、有機化学品、一般機械、綿花などとなっている。

表5 アダナ県の品目別・国別輸出 (2017年)

						(単位:100万ドル、%)			
品目	金額	構成比	1位	2位	3位	順位	国名	金額	構成比
プラスチック及びその製品	214	11.7	ドイツ	イラク	イタリア	1	イラク	257	14.1
自動車・同部品	200	11.0	フランス	米国	アゼルバイジャン	2	ドイツ	147	8.1
人造繊維の短繊維・同織物	151	8.3	スペイン	ブルガリア	ヨルダン	3	スペイン	129	7.1
果実及びナット	124	6.8	ロシア	イラク	ウクライナ	4	米国	99	5.4
一般機械	86	4.7	アゼルバイジャン	ドイツ	オーストリア	5	フランス	93	5.1
非ニット衣料	84	4.6	スペイン	英国	フランス	6	イタリア	67	3.7
肉及び食用のくず肉	81	4.4	イラク	香港	ベトナム	7	シリア	64	3.5
穀粉、加工穀物	79	4.3	イラク	ナイジェリア	シリア	8	ロシア	61	3.3
糖類及び砂糖菓子	67	3.7	オランダ	イタリア	スペイン	9	英国	46	2.5
綿及び綿織物	66	3.6	イタリア	ドイツ	チュニジア	10	アゼルバイジャン	46	2.5
合計	1,822	100.0					合計	1,822	100.0

出所:トルコ統計機構(TUIK)

表6 アダナ県の品目別・国別輸入（2017年）

品目	金額	構成比	1位	2位	3位
プラスチック及びその製品	440	20.3	サウジアラビア	韓国	ウズベキスタン
有機化学品	353	16.3	オランダ	サウジアラビア	クウェート
一般機械	238	11.0	ドイツ	イタリア	中国
綿及び綿織物	163	7.5	米国	ギリシャ	オーストリア
人造繊維の短繊維・同織物	127	5.8	インド	インドネシア	中国
穀物	90	4.1	ロシア	ルーマニア	セルビア
自動車・同部品	73	3.4	日本	ドイツ	中国
電気機器	71	3.3	中国	マレーシア	台湾
鉄鋼	56	2.6	中国	インド	ベルギー
各種の化学工業生産品	51	2.3	エジプト	中国	カタール
合計	2,171	100.0			

出所:トルコ統計機構(TUIK)

(単位:100万ドル、%)

順位	国名	金額	構成比
1	中国	230	10.6
2	サウジアラビア	179	8.2
3	ドイツ	133	6.1
4	オランダ	102	4.7
5	米国	101	4.7
6	インド	94	4.3
7	イスラエル	82	3.8
8	イタリア	79	3.6
9	韓国	62	2.9
10	クウェート	60	2.8
	合計	2,171	100.0

3. 産業動向

<農業・畜産>

同県は肥沃なチュクロヴァ平野の中心に位置し、全面積の38%が可耕地とされ、多毛作が可能であるなど、国内では農業開発の潜在性が最も高い地域の一つとなっている。地中海沿岸部では主に麦、トウモロコシ、ヒマワリ、綿、大豆、ピーナツ、柑橘類、オリーブ、ネクタリン、内陸部では麦、豆類、りんご、ブドウを生産する。畜産業は、牧畜と養蜂が地中海沿岸部で盛んである。

表7 アダナ県の農産品生産量（2016年）（単位:トン、%）

農産品	県内	国内	構成比
グレープフルーツ	195,066	253,120	77.1
大豆	100,436	165,000	60.9
みかん(クレメンティン)	58,001	95,480	60.7
ピーナツ	99,325	164,186	60.5
オレンジ(その他)	242,525	420,600	57.7
みかん(その他)	240,838	440,557	54.7
柿	8,374	34,650	24.2
レタス	47,625	233,662	20.4
スイカ	796,795	3,928,892	20.3
セサミ	3,648	19,521	18.7
ネクタリン	15,803	88,926	17.8
トウモロコシ	1,086,606	6,400,000	17.0
レモン	120,823	850,600	14.2
オレンジ(ワシントン)	189,216	1,358,100	13.9
みかん(さつま)	90,983	795,050	11.4
ヒマワリ	166,524	1,500,000	11.1
メロン	198,660	1,854,356	10.7
玉ねぎ	219,904	2,120,581	10.4
ざくろ	44,861	465,200	9.6
綿(綿の種子抜き)	54,680	756,000	7.2
綿(綿の種子入り)	151,880	2,100,000	7.2
麦(デュラム小麦以外)	621,302	16,980,000	3.7

出所:トルコ統計機構(TUIK)

<製造業>

主な産業は、繊維、自動車、食品加工、プラスチック、機械・同部品、家具が知られ、中小企業の活動も活発である。特に繊維産業は、伝統綿織物から化繊織物に至る生産が活発に行われている。ベイメンやファソンといった国内ファッションブランドの生産工場があるほか、軍用衣料の生産量は国内トップとされる。このほか、大規模な生産設備を持つ企業としては、オウズ・テックス社が欧米ブランド(ザラ、H&M、マークス&スペンサー、トミーヒルフ

イガー等)の委託生産を行っているほか、化学染料ではキムテックス(Kimteks)やエクソイ化学(Eksoy)、製靴産業ではケマルタンジャ(Kemal Tanca)やインジ(Inci)、ヴェロモダ(Vero Moda)などが知られる。

自動車産業では商用車テムサの主要工場と関連部品産業がある。また、国営パイプライン会社(BOTAŞ)によるイラクとアゼルバイジャンからの石油パイプラインが同県ジェイハンを搬出港としていることもあり、エネルギー、化学製品、プラスチック、物流等の分野での開発が今後も期待されている。

企業活動では、2016年のISOランキング500社で、同県の企業は13社、同501～1,000社では10社がランクインしている(ただし、本社機能をイスタンブールなどにおいている企業は含めない)。また、トルコ輸出業者会議(TIM)が発表した2016年の輸出企業上位1,000社のうち同県企業は21社がランクインしている。

外資系企業は、ドイツを中心とした欧州系企業が最も多く、日本、韓国、米国、イラク、イランからの投資もみられる。セクター別の主な外資系企業は以下の通り。

- ・繊維:Pibay(ドイツ)
- ・化学製品:BASF(ドイツ)、Eksoy(韓国)、Chryso(スペイン)
- ・プラスチック:Alpla(ドイツ)
- ・エネルギー:Enerjisa(ドイツ)
- ・食品:Kukre Gida(味の素/日本)、Amylum Nisasta(米)、Lesaffre(フランス)
- ・農業・畜産:New Hope(中国、日本)、Du Pont Pioneer Turkey(米)
- ・包装:Sarten Ambalaj(日本)、Olmuksan International Paper(米)、Mondi Tire Kutsan(オーストリア)など

自動車：

テムサ(Temsa)は、1968年設立の大型・中型およびミニバスを生産するサバンジュ財閥系の大手企業。同県セイハンにある工場の年間生産能力は、バス4,500台、軽トラック7,500台で、主な輸出相手国はフランス、ドイツ、イタリア、オーストリア、スウェーデン、リトアニア、ベネルクス諸国などの欧州諸国のほか米国となっている。2016年のISOランキング500社で108位。

テムサ機械(Temsa İş Makineleri)は、1968年設立の建機のディストリビューター。コマツとは30年前からディストリビューター契約があり、サバンジュ財閥が51%、丸紅が49%のシェアを持っている。コマツのほかDIECI、TEREX、OMG、VOLVO、CROWNの製品を取り扱う。

化学品：

ササ・ポリエステル(Sasa Polyester)は、1966年設立のポリマー、ポリエステル短繊維生産企業で、2015年にサバンジュ財閥がエルデムオウル・ホールディングに売却した。同県セイハンとハタイ県イスケンデルン市に生産工場を持ち、生産の40～45%を輸出している。2016年のISOランキング500社で82位。

BASFは、100%ドイツ出資企業で、2013年からセラミック接着剤、グラウチング用製品、断熱関連製品、コンクリート・セメント用添加物を生産する。アダナ・ハジュ・サバンジュ OIZ(以下 AOSB)のほか、コジャエリ県、トラブゾン県の3県に6つの工場を持つ。

エクソイ(Eksoy)は、1981年設立の化学繊維向けの染料と蛍光染料を生産する企業。1992年に韓国のKISCOとの合併で、AOSBにKimsoy Boya社を設立し、繊維産業向け化学品、染料を生産する。パキスタン・ラホールとインド・アフマダーバードにも工場を持つ。

クリソ(Chryso)は 1997 年設立のスペイン系のコンクリートミックス生産企業で、AOSB のほか、コジャエリ県、トラブゾン県に工場を持つ。

食品：

キュクレ食品(Kükre Gıda)は、1915 年設立の酢、調味料等の生産企業で、AOSB のほか、イズミル県、エスキシェヒル県に工場を持つ。2017 年にが味の素が買収した。イラク、ドイツ、米国、ベルギー、英国など 33 カ国へ輸出している。

エリタ食品(Elita Gıda)は、2006 年設立の植物油(トウモロコシ、ヒマワリ、大豆、カノーラなど)生産企業で、同県セイハンに工場を持ち、世界 100 カ国以上へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 214 位。

アミルムでん粉(Amylum Nişasta)は、1989 年設立の食品、飲料、製紙、家畜飼料用のトウモロコシ製品(でん粉)生産企業。2015 年に米国のアーチャー・ダニエルズ・ミッドランドの子会社となった。欧州を中心に、米国、韓国、タイ、日本、オーストラリア、南米、アフリカへ輸出している。AOSB の工場における生産の 3 割を輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 247 位。

ルサツフル(Lesaffre)は、1992 にトルコへ進出したフランスのイースト生産企業で、同県ジェイハンのほか中東部アマスヤ県と北西部クルクラレリ県にも工場を持ち、世界 80 カ国へ輸出している。

農業・畜産：

ニューホープ(New Hope)は 2013 年に中国の新希望集団と丸紅との合併により設立された牛、鶏用飼料を生産する企業で、AOSB に工場を持つ。総投資額は 1,000 万ドルで年間生産能力は 20 万トン。

デュポン・パイオニア(DuPont Pioneer Turkey)は、1986 年設立のトウモロコシ、ヒマワリ、麦の種子の生産企業で、同県ユレイルの工場を含め国内 7 カ所に販売網を持ち、主に国内向けに生産している。年間生産能力は 6,000 トン。

アクイエム(Akyem)は、1979 年設立の牛、鶏用飼料を生産する企業で、年間生産能力は 14 万 8,000 トン。同県セイハンに 2 つの工場を持つ。2016 年の ISO ランキング 500 社で 321 位。

ギュルソイ(Gürsoy Yem)は、1989 年設立の牛、鶏用飼料を生産する企業で AOSB に工場を持つ。1 時間あたり 50 トンを生産している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 417 位。

包装：

サルテン(Sarten Ambalaj)は、1972 年設立のトルコ最大の総合パッケージメーカーで、食品・生活用品やモーターオイル・化学品用のスチール缶とプラスチック容器を製造する。国内向け以外にも中東、欧州、ロシア、北アフリカなど周辺国へ輸出している。AOSB のほか、国内 15 工場、ロシア、バルカン諸国に工場を持つ。三井物産が 2015 年 3 月に 15% 出資している。

オルムクサン・インターナショナル・ペーパー(Olmuksan International Paper)は、1968 年設立の製紙・ボール紙生産企業で、2013 年にサバンジュ財閥が 87.5% のシェアを米国のインターナショナル・ペーパー社に売却した。AOSB の工場のほか、国内に 8 工場を持つ。

モンディ・ティレ・クトサン(Mondi Tire Kutsan)は、1974 年にイズミル県に設立され、製紙、ボール紙を生産する。2007 年にシェアの 53.56% をオーストリアの Mondi Packaging 社に買収された。国内に 4 工場を持ち、AOSB の工場では野菜・果実用の包装材を生産している。

テキスタイル：

ボッサ (Bossa) は、1951 年にサバンジュ財閥によって設立されたデニム生地生産企業。2008 年にアッカルダン社、2017 年にオウズ・テキスタイルに買収された。AOSB に大規模工場を持ち、米国、ロシア、欧州へも輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 344 位。

オウズ (Oğuz Tekstil) は、1974 年設立のポリエステルビスコース生地生産企業で、AOSB に工場を持ち、海外の大手アパレルブランド向けの生産も行う。生産の 45% を米国、ロシア、欧州を中心に 30 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 482 位。

ベイテクス (Beyteks) は、1993 年設立の繊維系生産企業で、同県ジェイハンに工場を持ち、アディダス、ナイキ、プーマ向け委託生産も行う。2016 年の ISO ランキング 500 社で 371 位。

ピバイ (Pibay) は、1988 年に同県コレイリでドイツ・Pichler 社との JV で設立されたテーブルクロス、クッションカバー生産企業。ドイツをはじめ、オランダ、スイス、日本、フィリピンなどへ輸出している。

鉄鋼：

ギュネイ・チェリッキ (Güney Çelik) は、1993 年設立の鋼鉄線の生産企業。AOSB に 4 つの工場とイスタンブール東部コジャエリ県のゲブゼ・ディルオヴァス OIZ に工場を持つ。欧州、米国、イラク、サウジアラビア、レバノン、UAE、中央アジア、アフリカへ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 426 位。

プラスチック：

アブディオウルラル (Abdioğulları Plastik) は、1963 年設立のプラスチック包装生産企業。AOSB に工場を持ち、生産の半分を欧州、アフリカ、中東、中央アジアなど 30 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 448 位。

アルプラ (Alpla) は、1992 年に進出したドイツ系プラスチック製品生産企業で、AOSB のほか国内 4 つの工場 (コジャエリ県、アンカラ県、コンヤ県) で食品、洗剤、化学品向け容器とキャップを生産する。

エネルギー：

エネルジサ (Enerjisa) は、サバンジュ財閥が 1993 年に設立した電力事業会社で、2008 年にバシュケント配電社 (Başkent EDAŞ)、2013 年にアイェダシュ配電社 (Ayedaş) とトロスラル配電社 (Toroslar EDAŞ) の 3 配電会社を民営化に伴い買収。2013 年に 50% のシェアをドイツのエーオン (E.ON) 社に売却した。チュクロヴァ地方 (トロスラル) のほかアンカラ (バシュケント)、イスタンブールのアジア側 (アイェダシュ) など国内 14 県に電力を供給している。

国営石油ガス・パイプライン輸送会社 (BOTAS) は、1974 年に設立された天然ガス・石油の輸出入、備蓄、販売を行う国営企業。現在、バクー・トビリシ・ジェイハン石油パイプライン、バクー・トビリシ・エルズルム天然ガスパイプライン、ギリシャとトルコ間の天然ガスパイプライン、ロシアからブルガリア経由の天然ガスパイプライン、イラン天然ガスパイプライン、ジュブガ・サムスン天然ガスパイプライン、イラク・トルコ間のキルクーク・ジェイハン石油パイプラインを通じた石油・天然ガスを扱う。同県ジェイハンに巨大な石油輸送ターミナル、ハタイ県ドルトゥヨルとテキルダール県マルマラ・エレリスィに天然ガスターミナルを持つ。

※現在、アゼルバイジャンのシャーデニスガス田からトルコ、ヨーロッパへ天然ガスを輸送するアナトリア横断パイプライン (TANAP) 計画、ロシアの天然ガスを黒海からトルコ経由で欧州へ輸送するターキッシュストリーム (Turkish Stream) 計画が進行している。TANAP は 2015 年に建設が始まっており、2018 年 8 月末トルコへの輸送を開始し、2019 年末にトランス・アドリアティック・パイプライン (TAP) に接続される予定。2017 年に建設が始まったターキッシュストリームは、2019 年に完工予定。

4. 公認工業地域 (OIZ)、フリーゾーン (FZ)

アダナ県には 3 カ所の公認工業地域 (OIZ) 及び 1 カ所のフリーゾーン、1 カ所のテクノパーク (技術開発特区) がある。これら OIZ の企業は、主に繊維、自動車、食品加工、プラスチック、機械・同部品、家具製造が中心となっている。OIZ のうち、サバンジュ財閥の創始者の名を冠したアダナ・ハジ・サバンジュ工業地域 (AOSB) は年間約 7 億 5,000 万ドルの輸出に貢献する同県最大の OIZ となっている。また、ハタイとの県境にあるアダナ・ユムルタルック・フリーゾーン (TAYSEB) が港湾施設を備えた FZ として機能している。さらに、政府の肝いりでマルマラ地域に次ぐ工業集積地として、エネルギー関連産業に特化したジェイハン・エネルギー特化工業地域計画が進められている。

国際物流はメルスィン港に依存しているが、現在、トルコ第 2 位の規模となるメルスィン県のチュクロヴァ国際空港計画が進められている。

また、高等教育機関では、チュクロヴァ大学とアダナ科学技術大学の 2 つの国立大学があり、現在約 5 万 5,000 名の学生が在籍しているほか、チュクロヴァ大学敷地内には技術開発特区がある。

アダナ・ハジ・サバンジュ OIZ (AOSB / Adana Hacı Sabancı Organize Sanayi Bölgesi)

AOSB は 1973 年に設立、敷地面積は 1,590 ヘクタールで、国内 OIZ の中では面積で 6 位に位置する。繊維 (全企業数の約 20%)、金属加工 (全企業数の約 14%)、食品加工 (全企業数の約 11%) を中心に、化学製品、製紙、家具、石油産業など 23 セクター、376 社が生産を行う。BASF、Cimsa、Bossas、Beyteks、Kemal Kukrer などの大手企業が同 OIZ に工場を持つ。アダナ空港へ 28 キロ、メルスィン港へ 98 キロ、イスケンデルン港へ 80 キロの距離にあり、鉄道、高速道路へのアクセスも良い。現在、2,000 ヘクタールの拡張計画がアダナ広域市自治体に承認されており、準備が進んでいる。

コザン OIZ (KOSB / Adana Kozan Organize Sanayi Bölgesi)

1998 年に設立された同県北部コザンに位置する。オリーブオイル、セメント、食品製造など 52 社が活動している。アダナ空港から 87 キロ、メルスィン港から 140 キロ、イスケンデルン港から 130 キロの位置にある。新規投資に向けた用地が不足しており、現在、拡張計画が検討されている。

ジェイハン・エネルギー特化 OIZ (用地買収段階)

2007 年にイラクとアゼルバイジャンからの石油パイプラインの搬出港としてのメリットを活かすため、精製所、石油化学、石油貯蔵施設、天然ガス貯蔵施設などを有するエネルギー関連産業に特化した OIZ 計画。同県ジェイハン南部ユムルタルック地域に建設を予定している。用地買収で遅延が続いていたが、現在はこの問題はほぼ解決され、科学技術産業省の承認後に投資企業の申請受付が開始される予定。すでに、アルジェリアのソナトラック (Sonatrach) が 2018 年 2 月に 10 億ドル規模のポリプロピレン工場を設立する計画を発表している。

カラタシュ農産品特化 OIZ(計画段階)

2018年3月にトルコ食糧農業畜産省の承認を受け、同県南部カラタシュに農産品に特化したOIZ設立が決定された。同OIZは、グリーンハウス栽培を中心とした付加価値の高い農産物の生産を目標としている。メルスィン港から117キロ、イスケンデルン港から141キロ、アダナ空港から61キロ、建設中のチュクロヴァ空港から48キロに位置しており、2019年に完成予定。計画段階ではあるが、第1フェーズとして最低1万デカル以上の投資申請の受付が始まっている。

カラタシュ漁業特化 OIZ(計画段階)

同県カラタシュの沿岸部の漁業特化OIZで、同沿岸部に養殖施設を建設し、スズキ、タイ、エビを養殖し、欧州等へ輸出することを目指している。完成予定は未定。

ユムルタルックFZ(TAYSEB / Adana Yumurtalık Free Zone)

ユムルタルックFZは、1985年にテクフェン建設(TEKFEN)により設立、運営されているトルコの最大規模のフリーゾーン(450万平方メートル)。現在の入居企業は化学製品、セメント、造船など17社。同FZは、トロス港、ガズィアンテプ県、メルスィン県を繋ぐ高速道路に直接アクセスが可能で、アダナ空港から80キロ、ハタイ空港から90キロ、鉄道駅から16キロの距離に位置する。

表8 アダナ県のOIZ、FZ、テクノパーク(技術開発特区)

OIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	ハジュ・サバンジュ Hacı Sabancı (AOSB)	1973年	376	繊維、金属加工、食品加工、化学製品	Amylum(米国)、BASF(ドイツ)、Beyteks、Bossa、Cimsa、Eksoy(韓国)、Kukre Gida(日本)、Sarten(日本)	https://www.adanaorganize.org.tr
2	コザン Kozan	1998年	52	オリーブオイル、セメント、食品保存、飲料	Cimsa	http://www.kozanosb.com
3	ジェイハン Ceyhan	2016年	-	-	-	http://www.cevhanosb.org
FZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	ユムルタルック Yumurtalık (TAYSEB)	1985年	17	化学製品、セメント、造船	Aschem(米国)、Sonmez Cimento、Akdeniz Shipyard	http://www.tayseb.com
テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	チュクロヴァ・テクノセント Cukurova Teknokent	2004年	80	医療、農業、エネルギー、バイオテク、機械	Imaginite Games	http://teknokent.cukurova.edu.tr

出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

Ⅲ. 中東向けトランジット港～メルスィン県

1. メルスィン県の概要

地中海沿岸東部に位置するメルスィン県の人口は 179 万 3,931 人と国内第 10 位で、メルスィン港はシリア、イラク、イランなど中東地域へのアクセスの良さから物流ハブとして注目を集めている。主な産業は、柑橘類を中心とした農業、繊維・衣料品を中心とした製造業、鉱業などである。メルスィン県は元々レバント地域からのアラブ系の移民の街で、かつては英国向け綿花の出荷地、米国の南北戦争期のスエズ運河経由の木材積出港として賑わい、30 カ国の領事館があった時代もある。

メルスィン港はアダナ県、南東部ガズィアンテプ県などからのアクセスも良く、シリア、イラク、イランといった周辺国を繋ぐハイウェイも整備されている。2012 年に主に米国向けのコンテナ港として東南部の埋立地に国営による第 2 港湾の建設が発表されているが、同計画は現在、進展はしていない。また、国際鉄道網の整備は遅れており、メルスィン県からイラク北部モスルへの貨物鉄道は一定量の需要がある場合のみのチャーター的な運行に留まっている。空路は、市内から 69 キロ離れているアダナ空港以外にチュクロヴァ国際空港(建設認可済み 2013 年 5 月着工)の開港が 2019 年内に予定されている。

2. 貿易動向

同県の輸出額と輸入額は国内 14 位(2017 年)である。最大の輸出相手国はイラクで、全体の 20%を占め、次いでロシアが約 10%となっている。主な輸出品は果実・ナッツ、野菜、植物油などが約半分を占める。輸入相手国は、中国、ロシア、カナダ、米国などで、農産品、プラスチック製品、一般機械が多い。

表9 メルスィン県の品目別・国別輸出 (2017年)

品目	金額	構成比	1位	2位	3位
果実及びナット	421	27.7	ロシア	イラク	ウクライナ
食用の野菜、根及び塊茎	214	14.1	イラク	エジプト	スーダン
動物性又は植物性の油脂	121	8.0	イラク	シリア	イスラエル
一般機械	112	7.4	ドイツ	スウェーデン	イラク
穀物、穀粉	66	4.3	シリア	カナダ	日本
鉄鋼製品	62	4.1	米国	トルクメニスタン	イラク
プラスチック及びその製品	44	2.9	イラク	エジプト	シリア
穀粉、加工穀物	39	2.6	シリア	エリトリア	イラク
野菜、果実、ナットの調製品	31	2.0	イラク	米国	シリア
自動車・同部品	30	2.0	ドイツ	イラン	ロシア
合計	1,519	100.0			

出所:トルコ統計機構(TUIK)

(単位:100万ドル、%)

順位	国名	金額	構成比
1	イラク	308	20.3
2	ロシア	155	10.2
3	シリア	107	7.0
4	ドイツ	63	4.1
5	イラン	40	2.6
6	エジプト	39	2.6
7	北キプロス	39	2.6
8	レバノン	38	2.5
9	ウクライナ	37	2.4
10	サウジアラビア	33	2.2
	合計	1,519	100.0

表10 メルスィン県の品目別・国別輸入 (2017年)

品目	金額	構成比	1位	2位	3位
食用の野菜、根及び塊茎	282	21.0	カナダ	オーストラリア	ロシア
採油用の種及び果実、各種の種及び果実、工業用又は医薬用の植物並びにわら及び飼料用植物	202	15.1	ナイジェリア	スーダン	ウクライナ
プラスチック及びその製品	91	6.8	サウジ	韓国	中国
動物性又は植物性の油脂	87	6.5	ロシア	ボスニア	ウクライナ
一般機械	71	5.3	中国	ドイツ	韓国
電気機器	66	4.9	ドイツ	タイ	中国
果実及びナット	66	4.9	エクアドル	北キプロス	サウジ
穀物	59	4.4	ロシア	カナダ	ウクライナ
食品残留物及びびくず、調製飼料	51	3.8	モロッコ	ロシア	米国
鉱物性燃料	48	3.6	イタリア	インド	ルーマニア
合計	1,341	100.0			

出所:トルコ統計機構(TUIK)

(単位:100万ドル、%)

順位	国名	金額	構成比
1	中国	131	9.8
2	ロシア	127	9.5
3	カナダ	119	8.9
4	米国	64	4.8
5	ドイツ	56	4.2
6	イタリア	54	4.0
7	ウクライナ	52	3.9
8	インド	46	3.4
9	ナイジェリア	38	2.8
10	アルゼンチン	36	2.7
	合計	1,341	100.0

3. 産業構造

<農業・畜産>

同県全体の 24%が農耕に適しているとされ、可耕地のうち 65%が乾地農耕地、35%が灌漑農耕地となっている。2016 年の時点で農耕地の総面積は 38 万 2,300 ヘクタールで、このうち 58%が田畑、34%が果樹栽培に利用されている。アダナ県と同様に温暖な地中海性気候にあり、バナナ、柑橘類、イチゴ、大豆、シシトウ、ズッキーニなどで大きな国内生産シェアを持つ。北部山岳地帯ではヤギ、ヒツジなどの牧畜が盛んで、特にヤギの飼育数は 2017 年に国内第 1 位となっている。2017 年の鶏肉の生産量でも国内第 5 位、5.7%のシェアを持つ。

表11 メルシン県農業品生産量（2016年）（単位：トン、%）

農業品	県内	国内	構成比
バナナ	221,064	305,926	72.3
レモン	587,392	850,600	69.1
みかん(キング)	3,488	5,950	58.6
オレンジ(ジャッファ)	36,340	71,300	51.0
イチゴ	164,988	415,150	39.7
シシトウガラシ	246,163	967,466	25.4
大豆	38,747	165,000	23.5
ズッキーニ	78,175	351,550	22.2
ネクタリン	15,822	88,926	17.8
桃	103,595	585,210	17.7
ブロッコリ	9,441	55,082	17.1
アボカド	331	1,950	17.0
ナス	143,133	854,049	16.8
レタス(アイスバー)	10,538	65,068	16.2
プラム	46,517	297,589	15.6
ざくろ	66,595	465,200	14.3
アプリコット	104,310	730,000	14.3
オレンジ(ワシントン)	189,216	1,358,100	13.9
みかん(さつま)	100,814	795,050	12.7
レタス	29,132	233,662	12.5
みかん(その他)	54,112	440,557	12.3
トマトテーブル	941,232	8,581,247	11.0
アーモンド	9,190	85,000	10.8
オリーブ(テーブル用)	43,438	430,000	10.1
オレンジ(その他)	31,345	420,600	7.5
トウモロコシ	220,547	6,400,000	3.4

出所：トルコ統計機構(TUIK)

<製造業>

主に食品、機械・同部品、ファイバーグラス製品、プラスチック製品、セメントの生産が盛んとなっている。企業活動では、2016 年の ISO ランキング 500 社で同県の企業は 7 社、同 501～1,000 社では 2 社がランクインしている(ただし、本社機能をイスタンブールなどにおいている企業は含めない)。また、トルコ輸出業者会議(TIM)が発表した 2016 年の輸出企業上位 1,000 社では、15 社がランクインしている。外資系企業では、米国のフリトレー(製菓)、中国の CGM Marble(大理石)などが進出している。

セメント：

チムサ(Çimsa)は 1972 年にサバンジュ財閥が設立したトルコ最大のセメント生産企業。ホワイトセメント生産では世界 3 大企業の 1 つに数えられる。同県イェニタシュケント(Yeni taşkent)を含め国内に 8 ヲ所、コンクリート生産は 25 ヲ所に工場を持つほか、海外にもドイツ、ロシア、イタリア、スペイン、ルーマニアに倉庫ターミナルを持つ。

主な製品は、国内市場向けはグレーセメント、輸出向けはホワイトセメントが中心で、後者は生産の約 7 割を輸出している。輸出先は米国、欧州、中東、アフリカなど広範囲にわたる。2016 年の ISO ランキング 500 社で 88 位。

食品：

バシュハン(Başhan)は、豆類、コメ加工企業で、同県アクデニズの豆類工場のほか、バルケスィル県ギョネンに精米工場を持つ。一日当たりの加工・生産量はレンズマメが 240 トン、豆類 300 トン、挽き割り小麦 100 トンなどで、生産量の 65%を輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 168 位。

タト・バクリヤット(Tat Bakliyat)は、1977 年に設立された豆類、コメ加工企業で同県アクデニズに工場を持つ。一日当たりの生産能力は 700 トンで生産量の 35%を中東をはじめ米国やアジアなど 82 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 237 位。

アルベル(Arbel)は、2007 年に設立され、2009 年にカナダの Alliance Grain Traders に買収された。カナダ、オーストラリア、米国から輸入した豆類を加工し、世界 85 カ国へ輸出している。同県アクデニズに工場を持つ。一日当たりの生産能力は 3 万 8,000 トン。2016 年の ISO ランキング 500 社で 257 位。

ドウルム・グダー(Durum Gıda)は、2002 年設立のパスタメーカーで、2009 年に系列会社アルベルとともにカナダの Alliance Grain Traders に買収された。同県アクデニズに工場を持つ。年間生産能力は 16 万トンで、欧州、アフリカ、日本、カナダへ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 370 位。

アルマダ・フーズ(Armada Foods)は、1993 年設立の豆類、コメ加工企業。同県アクデニズに工場を持ち、一日当たりの生産能力は 600 トン。イラクなど中東諸国、イタリア、ドイツ、オランダ、米国など 80 カ国へ輸出している。原料の 2 割をトルコ国内から、8 割をカナダ、メキシコ、アルゼンチン、米国、エジプト、エチオピアから調達している。

フリトレー(Frito Lay)は、世界大手のスナック菓子製造企業で、1988 年にトルコのスナックメーカー、ウザイ・グダ(Uzay Gıda)を買収し、トルコに進出した。タルスス OIZ のほかコジャエリ県スアディエにも工場を持つ。トルコ中部で生産されたジャガイモとトウモロコシを使用したチップスを生産する。

アヴェス(Aves)は、1990 年代に設立された企業で、タルスス OIZ に植物油(ヒマワリ)とバイオディーゼルの生産工場および石油貯蔵施設を持つ。国内のヒマワリ油生産量の 35%を占める。年間生産能力は 100 万トンで、イラク・エルビルで調理用オイルの生産工場を有する。トルコとイラクの間のハブル国境ゲートに近くに倉庫施設を保有しており、イラクをはじめ 33 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 228 位。

ガラス：

トラキア・ジャム(Trakya Cam)は、1935 年に初代大統領アタテュルクの指示で設立されたシシエジャム(Şişecam)ガラスの子会社で、現在はトルコの最大の民間銀行イシュバンクの傘下にある。板ガラスの生産量では欧州 1 位、世界 5 位、ガラス食器類では欧州 2 位、世界 3 位で、世界 154 カ国へ輸出している。タルスス OIZ に板ガラスとソーラーガラスの工場を持つ。2016 年の ISO ランキング 500 社で 111 位。

化学品：

シシエジャム・ケミカルズ(Şişecam Kimyasallar)は、シシエジャム傘下の化学品精製企業。同県カザンル(Kazanlı)の工場ですーダ、クロム・ケミカルなどを生産する。後背地のトロス山脈に原料となる石灰石、塩化ナトリウムを産出することから、周辺地域にはトラキア・ジャムなどのガラス関連企業が多い。ソーダ灰の生産では欧州 4 位、世界 10 位の企業。生産の約 6 割を南欧、アフリカを中心に輸出している。

衛生用品：

ハヤト化学(Hayat Kimya)は、1987年に設立されたハヤト・ホールディング傘下の洗剤、石鹸、ティッシュ、トイレットペーパー、生理用ナプキン、おむつなどの衛生製品を生産する大手企業。タルスス OIZ の工場ではトイレットペーパーを生産している。国内にはコジャエリ県、海外ではイラン、アルジェリア、エジプト、タタールスタン(ロシア)、ボスニア・ヘルツェゴビナに工場を持つ。世界 100 カ国へ輸出しており、ナイジェリア、南アフリカ、中東、パキスタン、インドの市場拡大を目標としている。2016 年の ISO ランキング 500 社で 45 位。

建材：

ユルドゥズ・エンテグレ(Yıldız Entegre)は、1982 年設立の木板生産企業。タルスス OIZ をはじめ国内 6 カ所、米国、ルーマニア、ロシア、スロベニアに工場を持つ。タルスス OIZ 工場は 1 日当たり 1,500 平方メートルの木板加工能力を有し、中密度繊維板、フローリング材などを生産している。世界 50 カ国以上に輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 50 位。

アシュト・ファイバークラス(AŞUT Fiberglass)は、1973 年設立のファイバークラス製のパイプ、タンク生産企業。タルスス OIZ に工場を持つ。米国のベクテルと Integrated Silicon Solution, Inc.(ISSI)、フランスのアルストム、丸紅、三菱重工、NKK、トルコのガマ、テクフェン、エンカなどの大手企業に販売実績を持つ。

テクノパネル(Teknopanel)は、2005 年設立の断熱パネル、屋根用パネル生産企業。中央アジア、欧州、中東の 64 カ国へ輸出している。タルスス OIZ のほか、サカルヤ県に工場を持つ。2016 年の ISO ランキング 500 社で 409 位。

機械・同部品：

オゼン・イシ・マキナ(Özen İş Makina)は、1971 年設立の自動車、建設、ガラス産業向け機械、部品、モールド生産企業。シシエジャム(Şişecam)向けの生産もある。タルススに工場を持つ。

4. 産業インフラ

<物流>

物流はコンテナ取り扱い量でトルコ第 2 位²のメルスィン港(MIP)を抱えることもあり、海運が中心となっている。

表12 メルスィン港の貨物取扱量 (単位:トン)

	積荷			荷卸			合計
	輸出	国内	トランジット	輸入	国内	トランジット	
2012年	10,249,336	412,921	18,241	18,898,491	1,032,678	135,255	30,746,922
2013年	11,949,003	427,289	32,516	18,858,211	970,497	88,454	32,325,970
2014年	12,109,436	362,712	8,125	18,856,944	859,731	27,781	32,224,729
2015年	12,171,979	354,811	2,295	18,531,807	930,985	4,483	31,996,360
2016年	12,096,595	454,234	1,552	17,965,582	1,163,157	2,688	31,683,808
2017年	13,602,327	342,493	1,212	19,012,061	882,377	6,342	33,846,812

出所: Director General of Merchant Marine

² 2018 年 1～9 月の期間で 123 万 6,000TEU で 1 位となった。

メルスィン港³は、2007年の民営化によりシンガポールのPSAとトルコのアクフェン・ホールディングによる合弁運営会社となった。2017年にはアクフェンが持ち株の40%をオーストラリアのIFMインベスターズに8億6,900万ドルで売却し、持株比率を10%とした。

同港の取り扱い能力は、輸入貨物を中心に2007年の84万TEUから2017年までに260万TEUへ拡大している。コンテナの取扱量実績は2017年に159万TEUと国内全体の16%をシェア占め、取扱量・額でイスタンブールのマルポートに次ぐ国内第2位の規模を誇る。また大規模なヤードスペースがあり、フリーゾーン、保税地区にも隣接している。港湾の敷地面積は国内最大の約112ヘクタールで、9つのコンテナ埠頭を含む21の埠頭を有し、11機のガントリークレーンを持つ。港内に乗り入れる鉄道ラインも3から6ラインに増設された。コンテナ埠頭はトランシップ貨物の取扱量の増加を見込んだ拡張工事が進められており、最終的なコンテナ取扱能力は260万TEU規模を予定している。

同港には20の海運会社および11のRORO船航路があり、年間4,000隻以上の船舶が寄港する。トリエステからのRORO船は100%がトランジットであるが、イラク、シリア向け貨物が多かったこともあり、シリア騒乱など中東情勢の影響で減少傾向にある。イランにとっても同港は欧州への重要な玄関港と見なされており、タブリーズから陸路トルコに運ばれた貨物を同港で積み替え、イタリアのトリエステにつなぐ海運ルートがある。なお、メルスィン港東側にはアナドル精製所(ATAŞ)のターミナルが附設しているほか、東部には、カラドヴァル(Karaduvar)漁港、西部にはマリーナ(Mersin Marina)、またシリフケ(Silifke)のタシュジュ(Taşucu)港にセカ(Seka)製紙の埠頭、タシュジュ市営埠頭などがある。タシュジュ港は、主に北キプロス共和国のギルネ(Girne)、レバノンのトリポリ(Trablus)との間に航路があり、ローカル貨物の輸送に用いられる。

なお、メルスィン港は、2011年3月18日付の官報でメルスィン税関を自動車貿易税関とするコミュニケが発表され、トルコ西部でのみ行われていた自動車通関がメルスィン県でも行われることになった。これにより、特に同じ船舶でイラク、シリア向けのトランジットおよび国内向け貨物を有する際の輸送コストが軽減されることになった。しかし、自動車のトランジットは2014年のピークの後、中東情勢悪化の影響で2016年に急減しており、現在は自動車部品の取り扱いが中心となっている。

表13 地中海(チュクロヴァ)地方のRO-RO Linesによる自動車輸送 (単位:台数)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
Taşucu - Tartous	5,437	3,026	1,180	127	-
Taşucu - Tripoli	8,292	8,613	14,758	18,361	19,788
Taşucu - Girne(Kyrenia)	34,153	34,497	29,640	29,944	14,241
Mersin - Alexandria	638	1,607	113	6	-
Mersin - Damietta	7,071	-	-	-	-
Mersin - Haifa	-	-	-	-	1,790
Mersin - Magusa(Famagusta)	18,901	22,138	20,760	22,811	31,979
Mersin - Trieste	34,848	35,849	37,538	36,234	-
Mersin - Girne(Kyrenia)	-	-	-	-	10,807
İskenderun - Port Said	6,146	5,463	2,822	-	-
İskenderun - Haifa	3,194	2,287	109	-	-
İskenderun - Dhuba	-	-	-	-	5,251
Mediterranean/Çukurova	118,680	113,480	106,920	107,483	83,856
Turkey	436,478	465,555	469,290	451,672	542,301

出所: Director General of Merchant Marine

³ <http://en.mersinport.com.tr/default.aspx>

5. 公認工業地域(OIZ)、フリーゾーン(FZ)

4 つ公認工業地域(OIZ)及び1ヵ所のフリーゾーン(FZ)、1ヵ所のテクノパーク(技術開発特区)がある。現在稼働している OIZ は、主力となるタルスス OIZ と、小規模なスィリフケ OIZ の 2 ヲ所で、ムット OIZ とタルスス食品特化 OIZ は計画段階にある。高等教育機関として、メルスィン国立大学、チャー私立大学、トロス私立大学があり、現在、メルスィン大学は約 4 万 5,000 名、チャー大学は約 5,000 名、トロス大学は約 4,000 名の学生が在籍している。技術開発特区は、メルスィン大学チフトリッキキョイ・キャンパス内に置かれている。

メルスィン・タルスス OIZ(MTOSB)

同県タルススに 1993 年に設立された同県最大の OIZ。敷地面積は 658 ヘクタールで、鉄鋼、食品、プラスチック製品、ガラス、化学製品などの業種で 171 社が操業している。同 OIZ の工場用地はすでに完売しており、企業からの需要に対応するために敷地面積を 756 ヘクタールまで拡張する計画となっている。OIZ 内にはシシエジヤム、フリトレイ、ハヤト化学、ユルドゥズ・エンテグレなどが入居している。

スィリフケ OIZ

2001 年に同県スィリフケに設立された OIZ で、敷地面積は 92.8 ヘクタール、企業数は 35 社で、プラスチック製品、大理石、食品、機械関連の小規模企業が大宗を占める。

メルスィン FZ(メスバシュ)(MESBAŞ)

1985 年に設立されたトルコ経済省に属するフリーゾーンで、メルスィン港に隣接している。敷地面積は 83 万 6,000 平方メートル、投資可能な土地は 62 万 5,000 平方メートルだが、すでに用地は埋まっている。現在、トルコ企業が 326 社、外資系企業が 144 社入居しており、食品、鉄鋼・パイプ、医療、アパレル、包装関連企業が多い。輸出額の 60.8%が工業製品、38.8%が食品・農産品となっている。食品・農産品輸出のうち果実が 79.8%を占める。主な貿易相手国はトルコ国内が 35%で、イスラム諸国(21%)、EU(12%)などとなっている。また、アパレル企業は、マークス&スペンサー、ボニタ、C&A、ザラ、モーガンなどの海外の主要ファッションブランド向けに生産している。入居企業全体の従業員約 9,000 人のうち 5,000 人がアパレル系企業に就労している。

同 FZ からの主な物流ルートは、欧州、中東、中央アジアへの陸路によるアクセスが一般的だが、空路のアクセスとしてはアダナのシャキルパシャ空港から 60 キロの距離にあるほか、建設中のチュクロヴァ空港から 40 キロに位置する。鉄道は、国鉄(TCDD)路線が FZ 内に引き込まれており、今後、40キロ離れたイエニジェ・ロジスティクス・センターが完成すれば、メルスィン港と同 FZ がロジスティクスセンターを通じて直結する。海運は、一般貨物、ドライバルク、液体の貨物は同 FZ 内の港で、コンテナ貨物はメルスィン港で取り扱われている。

表14 メルスィン県のOIZ、FZ、テクノパーク(技術開発特区)

	OIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	メルスィン・タルスス	Mersin Tarsus	1993年	211	鉄鋼、食品、プラスチック、化学製品、ガラス	Sise Cam, Trakya Cam, Hayat Kimya, Yildiz Entegre, Frito Lay (米国)	www.mtosb.org.tr
2	シリフケ	Silifke	2001年	35	プラスチック、大理石、食品、機械	Pisirgen Makine	http://www.silifkeosb.org.tr
3	ムット	Mut	2013年	-	-	-	http://www.mutorganizesanayibolgesi.com
4	タルスス食品専用	Tarsus Gida Ihtisas	2016年	-	-	-	-
	FZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	メスバシュ	MESBAS	1985年	470	食品、テキスタイル、医療		http://www.mesbas.com.tr
	テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	テクノスコープ	Technoscope	2006年	70	ソフトウェア、機械、食品、医療		http://www.technoscope.com.tr

出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

IV. イスケンデルン湾の鉄鋼地域

1. ハタイ県、オスマニエ県、カフラマンマラシュ県の概要

ハタイ県は、トルコ最南端、東地中海に面し、南部と北部をシリア国境に囲まれている。現在のハタイがトルコ共和国の一部となったのは歴史的には比較的新しく、フランスの委任統治から暫定的に独立した「ハタイ国」が1939年に国民投票でトルコへの帰属を決定したことによる。このため、同様にフランスから独立したシリアはハタイの領有権を主張しており、両国間の緊張関係の元になっている。同問題をめぐっては、アサド大統領が2000年に就任した当初、両国関係は急速に改善し、2004年のアサド大統領のトルコ訪問により、ハタイ問題は非公式ではあるが事実上外交問題ではなくなり、07年には自由貿易協定が締結・発効した。しかし、11年のシリア騒乱と同年末にシリア国内のムスリム同胞団の活動にトルコが干渉したことで関係が悪化し、その後の内戦で、両国の対立は決定的なものとなり、シリアをめぐるハタイの経済的な位置づけは、シリアからの難民問題もあり大きく逆行することとなった。ハタイ県の県庁所在地であるアンタキヤ市の人口は約37万人、次いでイスケンデルン市が25万人で、両市がハタイ県経済の中心的な役割を担っている。主な産業は鉄鋼業と農業で、このほか化学品、衣料品、靴、家具などとなっている。企業数では食品が266社、鉄鋼関連が138社(2013年)となっている。

オスマニエ県は、古くからチュクロヴァ地方の一部として扱われ、1933年にはアダナ県に属したが、1996年に分離した。人口は40万5,036人で、このうち12万2,688人がオスマニエ市に居住している。産業は、農業、畜産業、林業のポテンシャルが高く、近年、トルコ政府によるインセンティブで食品加工、鉄鋼をはじめとする製造業への投資が増えている。

カフラマンマラシュ県は、チュクロヴァ地方の北東にあり、第一次世界大戦後の大祖国戦争(独立戦争)でフランス軍を撃退したことを称えられ、1973年に「カフラマン(英雄)」のマラシュと改称された。同県の人口は112万人で主な産業は農業、食品加工、繊維、セメント、製紙、鉱業、エネルギーセクター(石炭火力)となっている。

2. 貿易動向

ハタイ県：

ハタイ県は、輸出額で国内7位、輸入額で9位(2017年)となっている。輸出先は、欧州、中東、ロシアが大部分を占める。輸出品目は鉄鋼・同製品が半分以上を占め、このほか果実、一般機械、自動車部品などとなっている。輸入相手国はロシアが30.4%で最も多く、このほか米国、ブラジル、オーストラリアなどとなっている。輸入全体の46.4%を鉄鋼関連が占め、主にイスケンデルン市とパヤス市の鉄鋼産業向けとなっている。

表15 ハタイ県の品目別・国別輸出（2017年）

（単位：100万ドル、％）

品目	金額	構成比
鉄鋼	898	38.5
果実及びナット	371	15.9
鉄鋼製品	283	12.1
食用の野菜、根及び塊茎	115	4.9
一般機械	98	4.2
自動車・同部品	79	3.4
紡織用繊維	46	2.0
鉱物性燃料	46	2.0
家具、寝具、マットレス、マットレスサポート、クッション その他これらに類する詰物をした物品並びにランプその 他の照明器具（他の類に該当するものを除く。）及び イルミネーションサイン、発光ネームプレートその他これら に類する物品並びにプレハブ建築物	41	1.8
鉱石、スラグ及び灰	37	1.6
合計	2,333	100.0

出所：トルコ統計機構（TUIK）

順位	国名	金額	構成比
1	シリア	206	8.8
2	サウジアラビア	183	7.8
3	イラク	181	7.8
4	ルーマニア	149	6.4
5	ロシア	140	6.0
6	イタリア	123	5.3
7	イギリス	123	5.3
8	スペイン	116	5.0
9	ベルギー	108	4.6
10	米国	107	4.6
	合計	2,333	100.0

表16 ハタイ県の品目別・国別輸入（2017年）

（単位：100万ドル、％）

品目	金額	構成比
鉄鋼	1,787	46.4
鉱物性燃料	962	25.0
鉱石、スラグ及び灰	440	11.4
肥料	106	2.8
一般機械	98	2.5
プラスチック及びその製品	85	2.2
亜鉛及びその製品	71	1.8
電気機器	57	1.5
採油用の種及び果実、各種の種及び果実、工業用 又は医薬用の植物並びにわら及び飼料用植物	53	1.4
綿及び綿織物	21	0.5
合計	3,852	100.0

出所：トルコ統計機構（TUIK）

順位	国名	金額	構成比
1	ロシア	1,170	30.4
2	米国	460	11.9
3	ブラジル	276	7.2
4	オーストラリア	221	5.7
5	カナダ	134	3.5
6	ウクライナ	131	3.4
7	ドイツ	124	3.2
8	オランダ	110	2.9
9	フランス	90	2.3
10	英国	84	2.2
	合計	3,852	100.0

オスマニエ県：

オスマニエ県は、輸出額で国内41位、輸入額で22位（2017年）となっている。主な輸出品目は鉄鋼が67.9％を占める。輸出相手国は、イエメンが48.1％を占め最大で、中東と北アフリカの国が多い。輸入品目でも鉄鋼関連が82.1％を占め、主に鉄鋼産業用原料が大宗を占める。輸入相手国は欧州が約半分を占め、このほか米国、ロシア、中国、カナダ、イランなどとなっている。

表17 オスマニエ県の品目別・国別輸出（2017年）

（単位：100万ドル、％）

品目	金額	構成比	順位	国名	金額	構成比
鉄鋼	110	68	1	イエメン	78	48.1
綿及び綿織物	16	10	2	アルジェリア	8	4.9
アルミニウム及びその製品	9	6	3	イスラエル	8	4.9
一般機械	7	4	4	ポルトガル	8	4.9
鉄鋼製品	5	3	5	チュニジア	8	4.9
電気機器	1	1	6	イタリア	6	3.7
果実及びナット	1	1	7	エジプト	5	3.1
人造繊維の短繊維・同織物	1	1	8	イラク	4	2.5
プラスチック及びその製品	1	1	9	米国	4	2.5
採油用の種及び果実、各種の種 及び果実、工業用又は医薬用の 植物並びにわら及び飼料用植物	1	1	10	ドイツ	3	1.9
合計	162	100	合計		162	100.0

出所：トルコ統計機構（TUIK）

表18 オスマニエ県の品目別・国別輸入（2017年）

（単位：100万ドル、％）

品目	金額	構成比	順位	国名	金額	構成比
鉄鋼	541	82.1	1	ベルギー	145	22.0
アルミニウム及びその製品	30	4.6	2	英国	90	13.7
一般機械	27	4.1	3	米国	78	11.8
綿及び綿織物	25	3.8	4	オランダ	58	8.8
電気機器	16	2.4	5	カナダ	51	7.7
採油用の種及び果実、各種の種 及び果実、工業用又は医薬用の 植物並びにわら及び飼料用植物	7	1.1	6	ロシア	45	6.8
紙及び製紙用パルプ	1	0.2	7	リビア	36	5.5
プラスチック及びその製品	1	0.2	8	中国	19	2.9
なめしエキス、染色エキス、タンニン 及びその誘導体、染料、顔料その 他の着色料、ペイント、ワニス、パテ その他のマスチック並びにインキ	1	0.2	9	イラン	16	2.4
メリヤス編物及びクロセ編物	1	0.1	10	ドイツ	14	2.1
合計	659	100.0	合計		659	100.0

出所：トルコ統計機構（TUIK）

カフラマンマラシュ県：

カフラマンマラシュ県は、輸出額で国内 18 位、輸入額で 13 位（2017 年）となっている。輸出の約 6 割以上を繊維関連製品が占め、このほか製紙、アルミ製品、鉄鋼製品などとなっている。輸出先は欧州と中東向けが多い。輸入はテキスタイル関連原料が全体の約 65%を占める。

表19 カフラマンマラシュ県の品目別・国別輸出（2017年）

（単位：100万ドル、％）

品目	金額	構成比
メリヤス編物及びクロセ編物	279	29.2
綿及び綿織物	272	28.5
紙及び製紙用パルプ	60	6.3
アルミニウム及びその製品	57	6.0
人造繊維の短繊維・同織物	52	5.4
鉄鋼製品	51	5.3
ニット衣料	40	4.2
一般機械	29	3.0
銅及びその製品	22	2.3
塩、硫黄、土石類、プラスター、石灰及びセメント	17	1.8
合計	955	100.0

順位	国名	金額	構成比
1	イタリア	209	21.9
2	エジプト	90	9.4
3	ドイツ	64	6.7
4	ブルガリア	47	4.9
5	ポルトガル	37	3.9
6	ギリシャ	30	3.1
7	スペイン	29	3.0
8	ポーランド	25	2.6
9	チュニジア	24	2.5
10	モロッコ	22	2.3
	合計	955	100.0

出所：トルコ統計機構（TUIK）

表20 カフラマンマラシュ県の品目別・国別輸入（2017年）

（単位：100万ドル、％）

品目	金額	構成比
綿及び綿織物	721	52.1
人造繊維の短繊維・同織物	167	12.1
一般機械	122	8.8
電気機器	97	7.0
肥料	54	3.9
木材パルプ、繊維素繊維を原料とするその他のパルプ及び古紙	36	2.6
人造繊維の長繊維・同織物・同製品	35	2.5
鉱物性燃料	33	2.4
なめしエキス、染色エキス、タンニン及びその誘導体、染料、顔料その他の着色料、ペイント、ワニス、パテその他のマスチック並びにインキ	27	1.9
プラスチック及びその製品	19	1.4
合計	1,385	100.0

順位	国名	金額	構成比
1	米国	360	26.0
2	中国	105	7.6
3	ブラジル	100	7.2
4	トルクメニスタン	72	5.2
5	マレーシア	71	5.1
6	ドイツ	68	4.9
7	インド	57	4.1
8	イタリア	37	2.7
9	ギリシャ	36	2.6
10	オーストラリア	35	2.5
	合計	1,385	100.0

出所：トルコ統計機構（TUIK）

3. 産業動向

<農業・農産品>

ハタイ県：

ハタイ県の主な農産品は、みかん、オレンジなどの柑橘類をはじめ、フダンソウ、パセリ、ディルなどの香菜、オリーブをはじめとした野菜・果実、小麦、綿花などとなっている。なかでも野菜・果実は温暖な気候により生産・出荷時期が他県よりも早いことが農業部門の優位性に大きく寄与している。国内生産に占めるシェアの大きな品目としては、みかん（さつま、50.6％）、オレンジ（ワシントン、20.6％）、パセリ（38.4％）などが挙げられる。綿花はアミク高原が産地として知られ、加工工場も集積している。このほかの農産品では、アンタキヤ周辺に植生が広がる月桂樹（ダフネ）に関連した製品がある。ハーブとしての利用だけでなく油分を利用した自然石鹸が知られる。ダフネ石鹸はアンタキヤ近郊の村々で手作りされているもので、ダフネ・オイルの含有率で品質が変わる。ダフネ・オイルはマッサージなどにも利用されている。

表21 ハタイ県の農産品生産量（2016年）（単位：トン、%）

農産品	県内	国内	構成比
みかん(さつま)	402,601	795,050	50.6
パセリ	22,334	58,190	38.4
みかん(その他)	129,821	440,557	29.5
オレンジ(ワシントン)	279,585	1,358,100	20.6
綿の種子	145,416	1,260,000	11.5
綿(綿の種子入り)	242,357	2,100,000	11.5
綿(綿の種子抜き)	87,248	756,000	11.5
玉ねぎ	229,931	2,120,581	10.8
人参	59,836	554,736	10.8
柿	3,249	34,650	9.4
オリーブ(油用)	116,770	1,300,000	9.0
レタス	20,927	233,662	9.0
青マメ	9,987	112,643	8.9
プラム	23,045	297,589	7.7
トウモロコシ	199,360	6,400,000	3.1

出所：トルコ統計機構(TUIK)

オスマニエ県：

オスマニエ県の農産物は、赤大根(ビーツ)、トウモロコシ、麦、ピーナッツなどで、近年、スイカ、トマト、オリーブの生産量も増えている。ピーナッツの国内生産量におけるシェアは 29.6%で、アダナ県に次ぐ生産量を誇る。ピーナッツ加工企業はオスマニエ県に集中しており、小規模も含め 350 社が従事している。

表22 オスマニエ県農産品生産量（2016年）（単位：トン、%）

農産品	県内	国内	構成比
赤大根	140,225	179,353	78.2
みかん(キング)	1,926	5,950	32.4
ピーナッツ	48,573	164,186	29.6
オリーブ(テーブル用)	33,506	430,000	7.8
トウモロコシ	386,052	6,400,000	6.0
大豆	6,105	165,000	3.7
麦(デュラム以外)	166,234	16,980,000	1.0

出所：トルコ統計機構(TUIK)

カフラマンマラシュ県：

カフラマンマラシュ県は、標高の高低差(150 メートル～1,800 メートル)を活かして幅広い農産物を生産している。麦、トウガラシ、ヒマワリ(ナッツ用)、ニンニク、クルミ、アプリコットなどが主な農産品で、特に、ニンニク、トウガラシ、ヒマワリ(ナッツ用)の生産量はそれぞれ国内生産量の 10%以上を占める。「トルコアイス」とも呼ばれるマラシュで生産されるアイスクリームはヤギのミルクが使用される。また、全長 520 キロメートルのジェイハン川は、460 キロメートルがカフラマンマラシュ県を流れ、9 つのダムを有するなど水資源が豊富で、淡水の水産品としてマスとマスのキャビアを生産し、年間 2,000 万ドルの規模で 55 カ国へ輸出している。

表23 カフラマンマラシュ県農産物生産量（2016年）（単位:トン、%）

農産物	県内	国内	構成比
ニンニク(生)	3,539	25,987	13.6
トウガラシ(乾燥したもの)	27,283	228,531	11.9
ニンニク(乾燥したもの)	12,646	109,161	11.6
ヒマワリ(ナッツ用)	19,515	170,716	11.4
クルミ	10,451	195,000	5.4
アブリコット	33,169	730,000	4.5
ブドウ(テーブル用、種入り)	47,817	1,380,120	3.5
デュラム小麦	124,988	3,620,000	3.5
トウモロコシ	210,098	6,400,000	3.3
麦(デュラム以外)	274,491	16,980,000	1.6

出所:トルコ統計機構(TUIK)

＜製造業＞

1970年代までは豊富な農産資源を背景にオリーブなどの食品加工業が産業の中核を占めていたが、現在は鉄鋼業が中心となっている。鉄鋼生産能力は、ハタイ県、オスマニエ県でトルコ全体の32%を占める。企業数では現在も食品加工関連が製造業の30.2%を占め最大で、次いで金属製品(15.6%)、石油化学品(15.2%)、衣料品(12.5%)などとなっている。

鉄鋼セクター概観

ハタイ県における鉄鋼業は、イスケンデルン市東部クルクハンに鉄鉱床が発見されたことを契機に、1970年代に国営イスケンデルン鉄鋼工場(Isdemir、イスデミル)が設立されたことに始まる。イスケンデルン市周辺には鉄鋼生産工場が集積しており、高炉のイスデミル、電炉のMMK、ヤズジュ、エキンジレル、エゲメンの6つの製鉄所を抱える。また、リマク、アッサンのコンテナ港を含め大小13の港湾施設を擁するなど、中東向けの港湾インフラも充実している。イスケンデルン港は、もともとイスデミル用の港として建設されたが、イラク戦争時には米軍物資の搬入港として、戦後は国連からの支援物資搬入で戦略的重要性を高めたことで知られる。

＜トルコの鉄鋼産業＞

トルコは粗鋼生産量(2016年、World Steel 統計)は3,316万トンと世界8位に位置し、世界の総生産量の約2.1%に相当する。トルコ鉄鋼輸出連盟(2017年)によると、輸出は1,780万トンで、輸出先はEU向け(18%)をはじめ中東(10.2%)、北米(7.1%)、北アフリカ(4.3%)と続く。輸入は2,090万トンで、輸入先はEU(19.6%)、EU以外の欧州(12.6%)、アジア(5.5%)、北米(3.5%)が続く。

製品別に見ると、条鋼(long)が53%と最大で、鋼板(flat)24%、鋼管類(tubes and pipes)11%、ビレット・スラブ5%、その他7%となっている。輸出量では、条鋼(long)が945万トンで、そのうち59%が鉄筋(rebar)、15%が鋼線材(wire rod)などとなっている。また、鋼板の輸出は419万トンで、そのうち60%が熱間圧延平鋼(hot rolled flat)、23%がめっき鋼板(coated flat)、10%が冷間圧延鋼板(cold rolled flat)となっている。

トルコの鉄鋼業は、国営3社(エレデミル、カラビュク、イスデミル)がそれぞれ黒海西部ゾングルダク県エレーリ、カラビュク県、ハタイ県イスケンデルン市の高炉工場を中心に発展してきた。これらの工場のうち、1995年にカルデミル、2006年にエルデミルとイスデミルが民営化された。この3工場以外にも国内には24の電炉工場があ

り、黒海、東地中海、マルマラ、エーゲ地域に集積している。トルコでは電炉比率が約 77%と高く、高炉による一貫製鉄は上述の 3 社に限られている。

現在、約 150 社の鉄鋼企業があり、4 万人以上が雇用されている。粗鋼から最終製品を生産する 31 社のうち、10 社がイスケンデルン周辺地域にあり、9 社がマルマラ地域、5 社が黒海地域、8 社がイズミル周辺地域にある。また、圧延機を擁する工場は 126 社で、主に延べ棒、鋼線材(wire rod)、鉄筋(reinforcing bar)、建設用鉄材(plain construction irons)を生産している。

イスケンデルン湾からハタイ県、オスマニエ県にかけての地域には、イスデミルのほか、トスヤル(トスチェリック)、バシュトゥ、またロシア系のマグニトゴルスク(MMK)などが製鉄所(電炉)を擁している。主にハタイ県の製鉄工場はイスケンデルン湾の南岸、オスマニエ県はハタイ県境にある工業地域(OIZ)に位置しており、両地域合わせると製鉄所の数は 10 カ所となる。2016 年の ISO ランキング 500 社の上位鉄鋼関連企業では、最大がイチダシュで 9 位、イスデミル 10 位、エルデミル 11 位、チョラクオウル 19 位、トスチェリック 22 位などとなっている。

ハタイ県：

イスデミル(İsdemir)は、1970 年設立のハタイ県パヤスにあるオヤク財閥傘下の鉄鋼企業。年間生産能力は溶鋼(liquid steel)が 530 万トン、平鋼 350 万トン、ビレット 250 万トンで生産の 14%を輸出している(フラット製品は 21 カ国、ロング製品は 19 カ国)している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 10 位。

MMK 金属(MMK Metalurji)は、100%のロシア出資の鉄鋼企業で、2007 年にマグニトゴルスク製鉄が投資を決定し、2010 年に生産を開始した。コジャエリ県のゲブゼ機械特化 OIZ とハタイ県ドルトヨルに製鉄工場を持つ。年間生産能力は 230 万トン。2016 年の ISO ランキング 500 社で 58 位。

コチ金属(Koç Metalurji)は、1993 年に設立された鉄鋼企業でオスマニエ県トプラクカレで鉄鋼生産、ハタイ県パヤスで建設用の鉄材を生産している。年間鉄鋼生産能力は 120 万トンで建設用鉄材の生産能力は 50 万トンで主に国内向けに生産している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 68 位。

イルハン鉄鋼(İlhan Demir Çelik)は、1983 年にハタイ県ドルトヨルに設立された建設用鉄材と鉄鋼パイプを生産する企業で年間生産能力は 25 万トン。生産の大部分を湾岸諸国、中米、アフリカに輸出している。2006 年に鉄鋼パイプ生産を開始し、年間生産能力は 10 万トン。2016 年の ISO ランキング 500 社で 223 位。

コルブス金属(Corbus Metal)は、1996 年設立の異形鉄筋、丸鋼、平鋼、スチールコイルなどを生産する鉄鋼企業。ハタイ県パヤスに工場を持ち、イスタンブールとケニアに販売拠点を持つ。年間生産能力は 60 万トンで主に中東とアフリカへ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 484 位。

トゥファン鉄鋼(Tufan Endustri Demir Çelik)は、2008 年にハタイ県パヤスに設立された鉄鋼企業。一ヵ月当たりの生産能力は 2 万 5,000 トンで 30 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 485 位。

ヤズジュ鉄鋼(Yazıcı Demir Çelik)は、1949 年に黒海中部に近いカラビュク県で設立された鉄鋼企業で、1993 年に鉄鋼生産工場をイスケンデルン・サルセキ OIZ に移設した。年間生産能力は圧延施設が 102 万トン、製鋼所が 85 万 9,000 トンで、中東を中心に、米国、中国、日本を含む 50 カ国に輸出している。ヤズジュ製鉄所は自社専用港を有しており、ドライ貨物のキャパシティは 350 万トン。

トスヤル・ホールディング(Tosyalı Holding)は、イスケンデルン市のトスヤル家によるストーブ用排煙パイプの生産(1952 年)から始まった企業で、現在はイスケンデルン市のほか、オスマニエ、イスタンブール、イズミル、海外ではアルジェリア、モンテネグロに生産施設を擁するトルコ鉄鋼業界屈指の大企業。傘下企業は 14 社で、18 の製鉄所を有し、約 4,500 人を雇用する。2015 年の ISO 上位 500 社では 21 位にランクインしている。生産は電

炉による熱延鋼板、線鉄、ペレット、建設用鉄鋼などで、イスタンブール第 3 空港建設や TANAP プロジェクトにも資材を提供している。2010 年にアルジェリアにトサル・アルジェリア(Tosyalı Algerie)を設立し、80%トサルホールディング、20%トプチュオールホールディングの出資で、総投資額 60 億ドルの鉄鋼工場を設立した。同工場は、アルジェリアにおける石油化学以外の分野では最大の投資額となっている。

オスマニエ県：

トサルトーヨー表面処理鋼板製造工場は、2012 年に東洋鋼板とトサル・ホールディングとの間で設立された合弁会社。2015 年にオスマニエ工業地域に表面処理鋼板製造工場の建設を開始し、2017 年に稼動を開始した。同社の資本金は 440 万リラ(約 2 億円)で、出資比率は東洋鋼板が 49%、トサル社が 51%。オスマニエ工場(25 万平方メートル)では、錫めっき鋼板(ETP)、溶融亜鉛めっき鋼板(HDG)、塗装鋼板(PPGI)、冷延鋼板(CCR)などの生産を行う。年間生産能力は 120 万トンで、酸洗・冷延や焼鈍、電気錫めっき、溶融亜鉛めっき、塗装など各種設備を持つ。ETP では、国内市場で最大シェアを持つエルデミルとシェアを競っている。

バシュトゥ金属加工(Baştuğ Metalurji)は、1991 年にオスマニエ OIZ に設立された鋼片、鉄筋の生産企業。年間生産能力は 45 万トンで、米国、イスラエル、中国、北アフリカ、中東、アフリカへ年約 20 万トンを輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 435 位。

カフラマンマラシュ県：

キパシュ繊維(Kipaş Mensucat)は、1984 年に設立されたデニム、シャツ、スーツ、アパレル用の布と糸を生産するキパシュ・ホールディング傘下の企業。年間生産能力はデニムが 3,000 万メートル、デニム以外は 2,000 万メートルで、一日の糸生産能力は 300 トン。生地は 6 割、糸は 5 割を輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 131 位。

キパシュ製紙(Kipaş Kağıt)は、2014 年に設立されたキパシュ・ホールディング傘下の製紙・梱包材企業。同県テュルクオール市に工場を持ち、年間生産能力は 42 万 5,000 トン。2016 年の ISO ランキング 500 社で 260 位。

シリキヂオール繊維(Şirikcioğlu Mensucat)は、1996 年設立のデニムの布と糸の生産企業。同県以外ではカイセリ県 FZ に工場を持ち、海外にもモロッコ、チュニジア、韓国、英国、イタリア、スペイン、ドイツ、オランダ、米国にオフィスを持つ。2016 年の ISO ランキング 500 社 266 位。

カフラマンマラシュ・セメント(KCS Kahramanmaraş Çimento)は 2005 年に設立されたクリンカーとレディーミクストコンクリートを生産するキパシュ・ホールディング傘下企業。同県以外に、アダナ県、ハタイ県、南東部のアドウヤマン県とガズィアンテップ県に計 9 つの工場を持つ。年間クリンカー生産能力は 140 万トン、セメントは 200 万トンで、イラク、シリア、北アフリカ、西アフリカ、米国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社で 268 位。

メモ・テキスタイル(Mem Textile)は 1998 年設立の繊維企業。カフラマンマラシュ OIZ のほか、同県内に 1 つの工場を持つ。生産の 20%を欧州、ブラジル、モロッコを含む 28 カ国へ輸出している。2016 年の ISO ランキング 500 社 275 位。

マテサ・テキスタイル(Matesa Textile)は 1989 年に設立されたデニム・アパレル用の生地や織物製品、繊維製品を生産する企業。同県ドゥルカディルオール市に工場を持つ。一日あたりの繊維生産能力は 120 トン、織物 50 トン、月あたりの生地生産能力は 150 万メートル、デニム布は 180 万メートル。2016 年の ISO 上位 500 社で 295 位。

アク食品(Ak Gıda)は 1996 年にユルドゥズ財閥によって設立された牛乳、チーズ生産企業。2015 年にシェアの 80%をフランスの Lactalis 社が買収した。国内以外にも中東をはじめ欧州、米国へ輸出している。同県工場の日当たり生産量は 500 トンで、トルコ各地に工場を持つ。

4. 産業インフラ

＜物流＞

ハタイ県とアダナ県に囲まれるイスケンデルン湾は、アダナ沿岸部からハタイ北西部沿岸にかけて入り組んだ内湾を形成している。古名をイツス湾といい、歴史上、東方貿易の中心のひとつだった。現在のアダナのユムルタルックは、かつてはアヤスと呼ばれ、古代から中世にかけてこの地域の主要港として栄えた。

現在、南東部ガズリアンテプとイスケンデルン湾をつなぐヌル(アマヌス)山脈横断トンネル(ハタイ県ハッサ(Hassa)とドルトヨル(Dörtyol)間)が 2021 年の完成を目指して計画されている。実現すれば、トルコ東部と東南部からイスケンデルン湾へのアクセスが距離で 31.3 キロ短くなり、イスケンデルン湾の諸港の重要性はさらに高まるものと見られる。また、シリア国境をつなぐ高速道路改修プロジェクト(イスケンデルン市～クルクハン市～レイハン市～ジルヴェギョズ国境ゲート)が進んでおり、渋滞緩和だけでなくシリアへの物流アクセスが改善するものと期待されている。さらに、現在、ハタイ県交通会社(HATULAS)により、イスケンデルン市から北キプロスのファマグスタ(カズイマウサ)、メルスィン、バイルートをつなぐフェリー航路の計画が検討されている。この計画が実現すれば、旅客・貨物輸送がさらに活発化し、ハタイの観光産業にも寄与すると見られている。

オスマニエ県は、経済的にはイスケンデルン湾地域に属すると言える。オスマニエはトルコ南東部の結節点にあり、主要道路だけでなく鉄道も通過する。このため物流面での可能性が注目されており、現在、空港のほか税関、ロジステックスセンター、エルズィン港(Erzin Tosyalı Limanı)の建設計画がある。これらはすべてトブラクカレ郡のオスマニエ工業地域(00SB)の近郊に位置する予定となっている。

カフラマンマラシュ県は、チュクロヴァ地方からトルコ北部のサムスン県、東部のカルス県経由でジョージアへ繋ぐ鉄道が通過する場所で、バクー・トビリシ・カルス(BTK)鉄道ルート経由で将来的に一带一路の一部として中国からメルスィンに至るルートとなる可能性もある。2017 年には同県南部のテュルクオウル・ロジスティクスセンターがオープンした。同センターは年間 190 万トンの貨物取扱い能力を持つ。

イスケンデルン湾の港湾施設：

イスケンデルン市街から見えるアマヌス山脈には巨大なクレバスが見え、伝説では預言者の女婿 4 代正統カリフのアリーが怒りにまかせて切りつけた跡とされる史跡として知られる。このクレバスから吹き降ろされる強風(Yarikkaya)は、イスケンデルン湾の海運運行にも大きな影響をもたらし、最大風速 64 ノットが吹き荒れる 9 月から 4 月まで運行が制限されることもある。

同湾はアダナ県のカタラシュ岬からハタイ県のアクンジュ岬に渡って広がり、前者にジェイハンのユムルタルック漁港、BTC ターミナル、ボタシュ・ターミナル、トロス・ギュブレ(肥料)・ターミナル、後者にドルトヨル市のボタシュ・ターミナル、デルタ・ルビス・ターミナル、アイテミズ・ターミナル、アイガズ・ターミナル、MMK 港、パヤス市のイスデミル港、イスケンデルン市のエキンジレル埠頭、アッサン港、ヤズジュ埠頭、サルセキ埠頭、リマク港などがある。ジェイハンの諸港は、石油パイプラインの出口であることから主にタンカー用の施設となる。主な輸入品は、鉱物資源、肥料、スクラップ、輸出品は鉄鋼、パイプライン経由の石油のトランジット輸送となる。

図 5 イスケンデルン湾の湾港



出所：ジェトロイスタンブール事務所作成

イスケンデルン湾の主要港概要：

リマク（イスケンデルン）港(LimakPort İskenderun)⁴：2011 年末の民営化で国営トルコ鉄道 (TCDD) からリマク・ホールディング (Limak Holding) に管理権が移り、2012 年以降に拡張・近代化が行われた。港湾面積 10 万平方メートル、8 つの埠頭を有し、3 基の移動式クレーン、4 基の STS クレーン、14 基のガントリークレーン (RTG) を擁する。主にコンテナ、一般貨物、バルク(最大 7 万 DWT)、プロジェクト貨物を取り扱う。一般貨物埠頭は 732 メートル、コンテナ・埠頭は 920 メートル、最大水深 15.5 メートル、コンテナの取扱能力は年間 100 万 TEU (2017 年実績は 27 万 TEU)。また、同港は 2008 年からエジプト、イスラエル、レバノン向け Ro-Ro Ropax (Ro-Ro 自動車輸送) サービスを開始した。輸送能力は年間 12 万台、トラック 3 万台。鉄道を通じてアダナ、ガズィアンテプ、カフラマンマラシュ、カイセリ、カラマン、コンヤ、アンカラの各 OIZ と直結でき、北イラクへの玄関港ともなっている。

⁴ <http://www.limakports.com.tr/en>

表24 リマク（イスケンデルン）港の貨物取扱量

（単位：トン）

	積荷			荷卸			合計
	輸出	国内	トランジット	輸入	国内	トランジット	
2012年	5,389,658	2,948,095	7,134	19,824,423	535,169	15,440	28,719,919
2013年	6,410,470	2,677,724	34,497	21,293,394	767,576	58,591	31,242,252
2014年	6,152,988	3,097,933	643	22,063,320	681,493	63,661	32,060,038
2015年	5,673,397	2,779,544	37,965	26,849,959	703,821	90,098	36,134,784
2016年	7,365,234	3,330,433	6,991	28,578,221	834,898	72,349	40,188,126
2017年	10,728,242	4,951,271	1,312,330	36,968,392	1,291,644	269,358	55,521,237

出所：Director General of Merchant Marine

アッサン港(Assan Port)⁵:2010 年末にキバル・ホールディングがイスケンデルン OIZ 内に建設。港湾面積 7 万平方メートル、埠頭は 340 メートル×2、最大水深 19 メートル、2 つの埠頭を有し、コンテナ、一般貨物、プロジェクト貨物、ドライバルクを取り扱う。コンテナの取扱能力は年間 25 万 TEU、一般貨物の取り扱い能力は 170 万トンである。2017 年のコンテナ取扱実績は 18.8 万 TEU で、2016 年に始まった拡張工事でコンテナの取扱能力は年間 40 万 TEU に拡大する予定。

イスデミル港(İsdemir Port)⁶:パヤスのイスデミルに属する敷地面積 107 万 2,248 平方メートルの港で、バルク個体、一般貨物を取り扱う。5 本の埠頭(200～500 メートル)を持ち、水深は最大 19 メートル、6 万から 18 万 DWT の船舶の寄港が可能である。15 基のクレーンを擁し、鉄道とも接続している。

MMK 港(MMK Port)⁷:MMK 鉄鋼の港で、10 万 DWT までのドライバルク、一般貨物、鉄屑、コンテナ、ローロー貨物を取り扱う。埠頭は 8 つあり、深さ 15 メートル以上、長さ 155～265 メートル。年間取扱能力は 1,200 万トンである。

ボタシュ・ターミナル(BOTAŞ Terminal):ドルトヨルにある国営石油パイプライン会社ボタシュの栈橋で、タンカー用埠頭 1 本を持ち、年間取扱能力は最大 1.5 万トンである。ボタシュはデルタ・ルビス・ターミナル、アイガズ・ターミナル、アイテミズ・ターミナルなども管理している。

トロス・ギュブレ(肥料)・ターミナル(Toros Gübre Terminal)⁸:ジェイハンにあるテクフェン・ホールディング傘下の港である。1981 年にトロス肥料工場の港として建設され、1990 年までに現在の規模となる。水深 4.8～13.5 メートル深さの 8 本の埠頭を持ち、年間1,500 万トンのドライ貨物、一般貨物、1,350 万トンの液体貨物の取扱能力を持つ。ユムルタルック FZ から 15 キロ離れた位置にある。

ボタシュ・石油ターミナル(BOTAŞ oil Terminal)は、ジェイハンにあるボタシュの石油貨物のメインポートである。4 本の埠頭(300～355 メートル)を持ち、水深は最大 21.6 メートルある。

5. 公認工業地域(OIZ)

ハタイ県：

ハタイ県には、5 カ所の公認工業地域(OIZ)が稼働しており、主に鉄鋼・同関連企業が集積している。現在、さらに 2 カ所の OIZ とテクノパーク(技術開発特区)ハタイの設置が計画されている。また、同県の高等教育機関とし

⁵ <http://assanport.com/>

⁶ <https://www.isdemir.com.tr/corporate/products-and-services/services/>

⁷ http://mmkturkey.com.tr/en/?page_id=68

⁸ <http://torosterminal.com.tr/en/terminal-informations/toros-ceyhan-harbour>

て、ムスタファ・ケマル大学とイスケンデルン工科大学の 2 つの国立大学があり、現在合計約 4 万名の学生が在籍している。ムスタファ・ケマル大学の敷地内には技術開発特区もある。

パヤス OIZ (Payas OSB)

1995 年にイスケンデルン湾に設立された工業団地。敷地面積は 53 ヘクタールで、ハタイ県の空港から 65 キロ、イスデミル港から 4 キロ、パヤス鉄道駅から 3 キロの距離にある。入居企業のすべてが鉄鋼と金属加工品を生産している。トルコ鉄鋼業界大手のコルブス、イルハン鉄鋼、コチ金属加工も同 OIZ に工場を持つほか、パヤス OIZ から 1 キロの距離にイスデミルの工場がある。

イスケンデルン OIZ (İskenderun OSB)

1980 年設立の工業団地で、パヤス OIZ から 7 キロ離れた距離にある。鉄鋼、機械、フィルター関係の企業が入居しており、トスチェリッキ鉄鋼、ヤズジュ鉄鋼など大手企業が工場を持つ。ヤズジュ社およびエキンジ社、アッサン社の港湾栈橋が OIZ 内にある。

アンタキヤ OIZ (Antakya OSB)

1996 年に設立され、イスケンデルン市から 45 キロ、アンタキヤ市から 35 キロ離れた距離にある。主に食品加工、金属加工、機械機器関連の 67 社の工場が入居する。敷地面積は 107 ヘクタールで、さらに 137 ヘクタールの拡張が科学技術産業省に承認されており、2019 年からの稼働を目指している。

表25 ハタイ県のOIZ、FZ、テクノパーク(技術開発特区)

	OIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	パヤス	Payas	1995年	23	鉄鋼、金属加工	Corbus, İlhan Demir Çelik, Koç Metalurji	http://www.payasosb.com
2	イスケンデルン	İskenderun	1980年	32	鉄鋼、機械	Tosçelik, Yazıcı Demir Çelik	http://www.iskenderunosb.org.tr
3	アンタキヤ	Antakya	1996年	67	食品、金属加工、機械	Hatboru	http://www.antakyaosb.org.tr
4	イスケンデルン第2	İskenderun 2. OSB	2006年	2	鉄鋼、石炭	Tosçelik, Atakaş	-
5	エルズイン	Erzin	2008年	38	鉄鋼、機械、食品	-	-
6	ハッサ	Hassa	2017年	-	-	-	-
7	クルクハン	Kırkhan	2017年	-	-	-	-
	テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	テクノパーク・ハタイ	Teknopark Hatay	2014年	-	-	-	-

出所：ジェトロイスタンブール事務所作成

オスマニエ県：

オスマニエ県には、オスマニエ OIZ とカディルリ OIZ の 2 ヵ所に公認工業地域(OIZ)が稼働しており、2017 年にオスマニエ OIZ 敷地内にテクノパーク(技術開発特区)が設立された。2 つの OIZ では主に金属加工、繊維、食品関連企業が入居している。また、同県の高等教育機関として、チュクロヴァ大学(アダナ)工学部とコルクト・アタ大学の 2 つの国立大学があり、現在約 1 万 3,000 名の学生が在籍している。

オスマニエ OIZ(OOSB /Osmaniye Organize Sanayi Bölgesi)

OOSB は、オスマニエ県トプラクカレ市に 1994 年に設立され、敷地面積 699 ヘクタールで南東部最大規模を誇る。主に金属加工、繊維、食品関連企業が稼働しており、バシットウ金属加工、トスチェリッキ鉄鋼、トスヤル東洋、ベイテクス繊維など大手企業が工場を有する。トルコ政府は、同 OIB をテクノパーク(技術開発特区)のひとつに指定し、公認 R&D センターと位置づけている。また、スラグ・リサイクリング施設計画(Cüruf Ayrıştırma ve Geri Dönüşüm Tesisi)、鉄産業クラスター(Kümelenme)計画などが進められている。オスマニエ県は、インキュベーション・オフィス計画(İŞGEM)の対象地に指定されており、EU ファンドの支援(850 万ユーロ)も受けている。

カディルリ OIZ(Kadirli OIZ)

カディルリ OIZ は、1997 年にオスマニエ県カディルリ市に設立さ、アダナ空港から 90 キロ、鉄道駅から 45 キロ、イスケンデルン港から 100 キロ離れた位置にある。総敷地面積は 171 ヘクタールで、繊維と食品関連企業が多く入居する。シェンピリチ(鶏肉)、ベイテクス繊維、JNR 繊維など大企業が入居している。

表26 オスマニエ県のOIZ、テクノパーク(技術開発特区)

	OIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	オスマニエ	Osmaniye	1994年	100	金属加工、繊維、食品	Bastug Metalurji, Toscelik, Tosyali Toyo, Beyteks	http://www.oosb.org.tr
2	カディルリ	Kadirli	1997年	36	繊維、食品	Şenpiliç, Beyteks, JNR Mensucat	http://www.kadirliosb.org
	テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	テクノパーク	Osmaniye Teknopark	2017年	-	-	-	-

出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

カフラマンマラシュ県:

カフラマンマラシュ県には、OIZ が4カ所にあり、このうち、カフラマンマラシュ OIZ、エルビスタン OIZ、トゥルクオール OIZ の 3 つが稼働中で、テキスタイル特化 OIZ は開設準備を進めている。また、同県の高等教育機関として、カフラマンマラシュ・ストウチュ・イマム国立大学があり、現在約 3 万 6,780 名の学生が在籍している。大学の敷地内にテクノパーク(技術開発特区)の設立が決定され、ソフトウェア、農業、繊維関係の 32 社が操業している。いずれの OIZ ともに、繊維、金属加工関連企業が主体となっている。

表27 カフラマンマラシュ県のOIZ、テクノパーク(技術開発特区)

	OIZ名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	カフラマンマラシュ	Kahramanmaraş	1992年	54	繊維、金属加工	Kipaş Mensucat, Mem Textile, Matesa Textile,	http://www.kmosb.org
2	エルビスタン	Elbistan	2009年	21	繊維、家具、金属加工	-	http://www.elbistanosb.org.tr/
3	トゥルクオール	Türkoğlu	2009年	28	繊維、食品、金属加工	Bagdat Baharat, Şirikçioglu	http://www.turkogluosb.org
4	テキスタイル特化	Tekstil İhtisas	2015年	-	-	Mem Tekstil, Kipaş Mensucat, Şirikçioglu	http://www.ktiosb.org
	テクノパーク名		設立	企業数	主なセクター	主な企業	ウェブサイト
1	テクノセント	Teknokent	2011年	32	ソフトウェア、農業、繊維	T-Soft	http://teknokent.ksu.edu.tr

出所: ジェトロイスタンブール事務所作成

レポートをご覧いただいた後、アンケート(所要時間:約 1 分)にご協力ください。

<https://www.jetro.go.jp/form5/pub/ora2/20180029>

チュクロヴァ地方産業調査 アダナ、メルスィン、オスマニエ、ハタイ、カフラマンマラシュを中心とした経済・投資環境

2018 年 12 月

作成者: 日本貿易振興機構(ジェトロ)
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
TEL:03-3582-5180(海外調査部中東アフリカ課)

<http://www.jetro.go.jp>

禁無断転載